



静岡県における高齢者の生活実態調査Ⅷ
生活自立度と要介護状態にかかわる調査結果報告書

(編集)静岡県総合健康センター

平成 23 年 3 月

はじめに

「静岡県における高齢者の生活実態調査」は、「活動的余命と身体・心理・社会的要因の関連研究」として、静岡県、国立健康・栄養研究所と共同で、平成11年度に静岡県内74市町村から無作為に抽出した、2万2千人の高齢者を対象に実施されました。同様に、平成14年、17年、20年度においても追跡調査として計4回にわたり、身体状況、生活状況、生活満足度等の生活実態を明らかにしてきました。また、平成17年、20年度には、「要介護認定及び高齢者の心身の状況の変化に関する研究」のための調査も追加されました。

この調査を行ってきた9年の間には、介護保険法が制定され、また導入以来増え続ける要支援・要介護者への対応のために、介護保険制度の改正が繰り返されました。平成18年度からは、介護予防の考え方が一層重視されたことを受けて、今後とも高齢者が、できるだけ介護を受けずに、自立した生活が長く送れるための方策を充実していくことが求められます。

このような考え方は、世界保健機関（WHO）から「Active Aging」と称して、わが国の介護保険制度導入より前に提唱されており、その定義の中で「人々が歳を重ねても生活の質が向上するように、健康、参加、安全の機会を最適化するプロセスである」と記されています。また、WHOは「Active」の意味について、「社会的、経済的、文化的、精神的、市民的な事柄への継続的な参加を指し、身体的に活動的でいられることや、労働に従事する能力を持っていることだけを指すのではない」としており、高齢者が何らかの活動に参加していくことの重要性を指摘しています。

本調査も、既述のとおり、「活動的余命と身体・心理・社会的要因の関連研究」として進めてきたことから、この結果をまとめ、提供することは、「Active Aging」の定義を実証する観点からも意義深いものではないかと考えます。

そこで本書において、4回にわたる調査の結果をもとに、「市町村別自立状況の経年変化」と「要介護状態と身体・心理・社会的要因との関連」の2つのテーマを設定し、まとめを行いました。それぞれの特徴として、前者は、自立状況の経年変化を視覚的に捉えやすくするため、マップ化を行い、後者は介護保険認定区分と生活実態とのクロス集計を行い、それらの関連性について整理をしました。本書を御活用いただくことで、関係機関における高齢者の健康課題の把握や予防活動の推進等の一助となれば幸いです。

平成23年3月
静岡県総合健康センター
所長 小野寺 恭敬

目 次

第 1 章 地域在住高齢者における市町村別自立状況の経年変化	1
第 2 章 高齢者における要介護状態と身体・心理・社会的要因との 関連についての研究	17

第 1 章

地域在住高齢者における市町村別自立状況の経年変化

I 目的

平成 11 年から 10 年計画で 3 年ごとに「高齢者の生活実態調査」を縦断的に実施してきた。今回、この調査結果から、地域ごとの自立の状況について、自然観察的な視点で経年変化を概観するためマップ化し、取りまとめたので報告する。

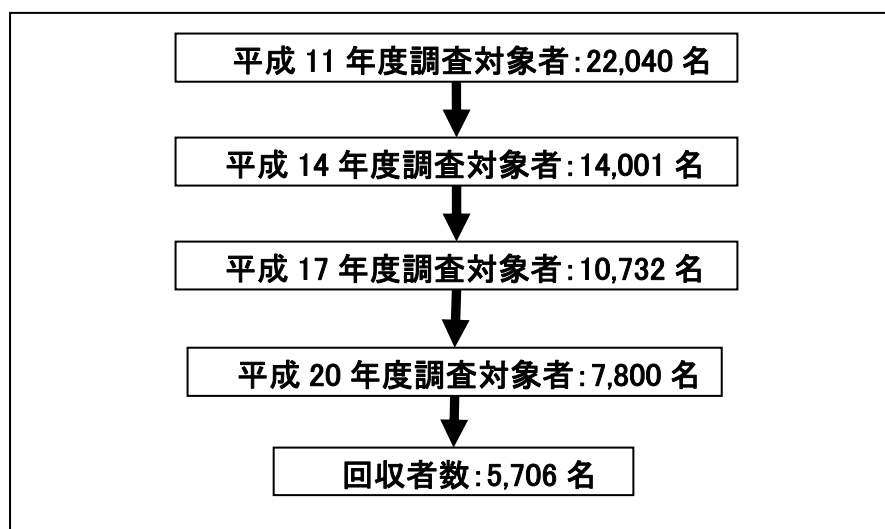
II 方法

1 調査客体と抽出の方法

平成 11 年度、静岡県内の各市町の住民基本台帳より、男女別、年齢階層別（前期・後期）に 300 名ずつ無作為に抽出した高齢者 22,040 名に対して、10 年間の計画でコホートによる「高齢者の生活実態縦断調査」を実施した。その後、平成 14、17、20 年度に、同一の方法で調査を縦断的に実施した。本章では全ての年度の調査結果を分析に用いた。

2 調査方法

郵送による、記名自記式配票調査法で実施した。各回、回収のあった者に対して、次の回の調査を依頼（各回生存確認済み）した。



静岡県高齢者生活実態調査の流れ

3 調査内容

静岡県における「高齢者の生活実態調査」の質問項目のうち、以下を本章の分析で使用した。

- (1) 基本情報（性別）
- (2) 移動状況（1項目）

4 倫理的配慮

調査対象者個人には、プライバシーの保護および調査参加への任意性を保証するため、書面による依頼を行い、回収は個人単位で郵送による回収とした。また、調査データの保管については、個人名はコード番号に変換してパソコン入力を行った。さらに、調査データと名簿（個人名、住所等が記載されたもの）とを、それぞれ鍵のかかる保管庫を使用して別々に管理した。また、本調査による研究の実施は、静岡県総合健康センター倫理審査委員会からの承認を得ている。

5 分析方法

分析は、まず移動状況の「日常生活での移動の状況について最もあてはまるもの一つに○をつけて下さい」という質問に対し、「自転車、車、バス、電車を使って一人で外出できる」もしくは「家庭内及び隣近所では、ほぼ不自由なく動き活動できる」と回答した場合を、自立していると定義付けした。本章の分析は、この定義に基づき実施した。なお、この自立の定義は、旧厚生省の「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」（平成3年11月18日老健第102-2号）でランクJ（何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する）に該当する。

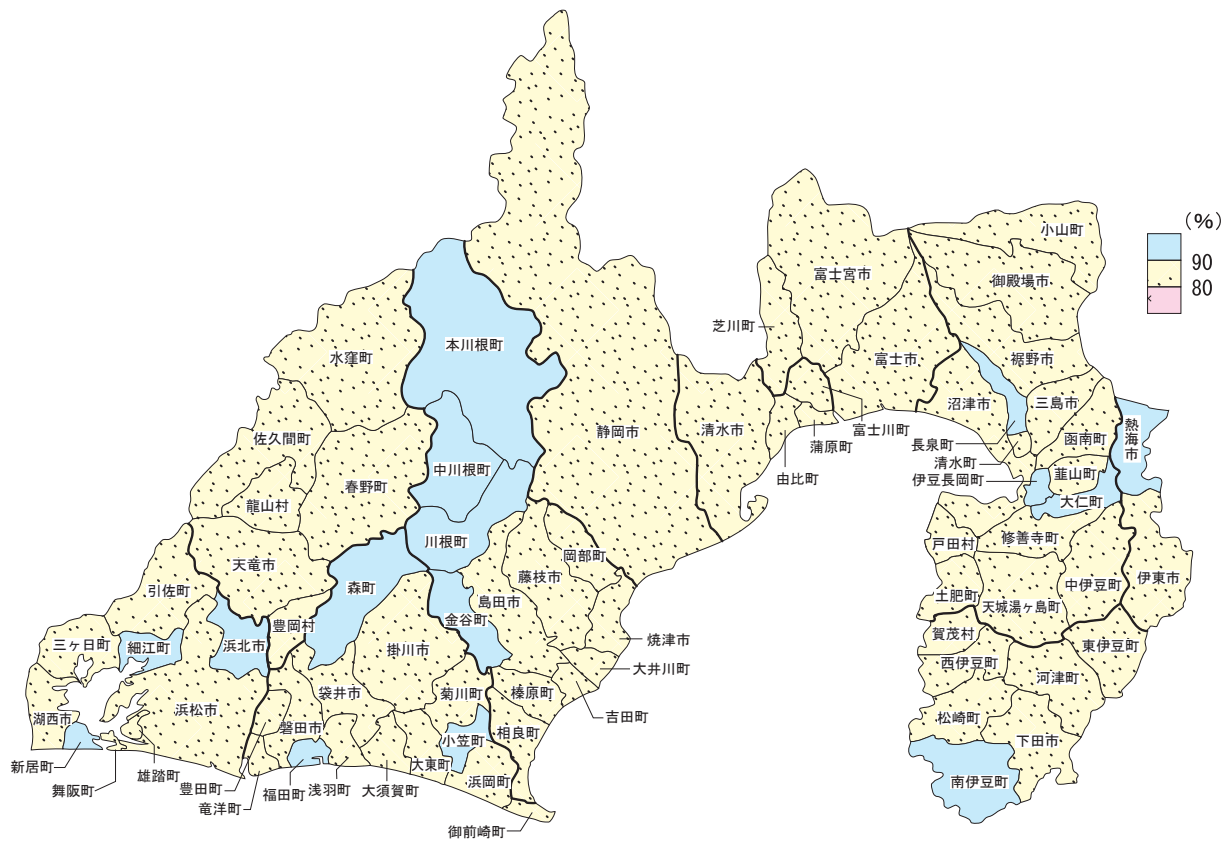
そして、自立の定義に該当する者の割合を、ベースライン調査時（平成11年10月1日現在）における当時の市町村別（74）と、現在（平成23年1月現在）の市町村別（35）で、各調査時点の状況をそれぞれマップ化し、その変化について検討した。

Ⅲ 結 果

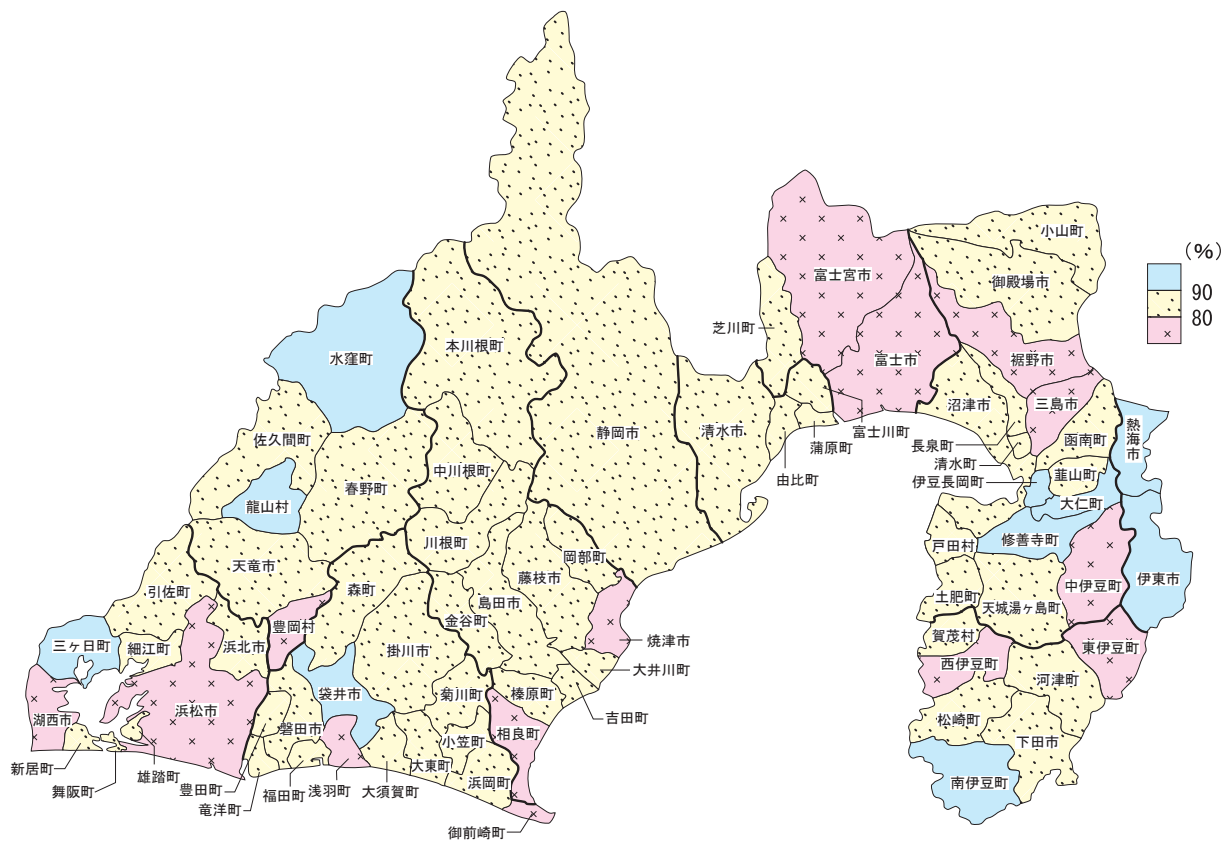
本章の自立の定義による高齢者の自立者割合状況は、ベースライン調査時点（n=13,570）が92%（男性92%、女性93%）、3年後の追跡調査時点（n=11,069）が91%（男性91%、女性91%）、6年後の追跡調査時点（n=8,154）が87%（男性89%、女性85%）、9年後の追跡調査時点（n=5,129）が84%（男性87%、女性82%）と、追跡回数が増えるほど、割合は低下していた。現在の市町別（35）に分析した際、ベースライン調査時において、最も高率であったのは裾野市で96%であった。最も低率であったのは焼津市の87%であった。3年後の追跡調査時において、最も高率であったのは清水町で95%であった。最も低率であったのは森町の85%であった。6年後の追跡調査時において、最も高率であったのは川根本町の92%であった。最も低率であったのは富士宮市の82%であった。9年後の追跡調査時において、最も高率であったのは熱海市で96.3%であった。最も低率であったのは東伊豆町の76%であった。

次に、ベースライン調査当時の市町村別（74）の自立状況をマップ化した結果を図1に示す。ベースライン調査時点から、3年後の追跡調査、6年後の追跡調査、9年後の追跡調査と低率を示す市町村が増加している傾向にあった。地域別の特徴としては、東部・伊豆地域がやや他の地域と比較して低率を示す市町村が多い傾向にあった。

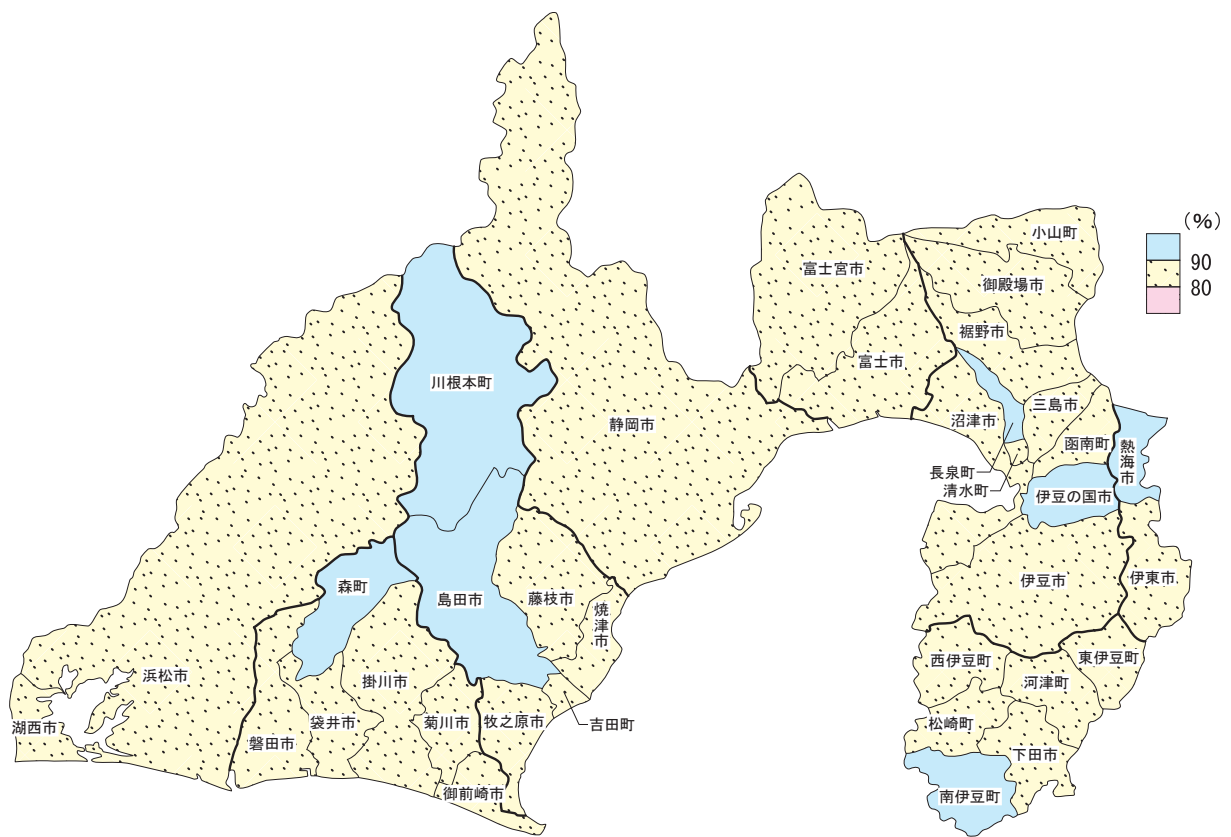
同様の分析を現在の市町別（35）で行った結果を図2に示す。ベースライン調査時は90%以下の箇所は6ヶ所であったのが、3年後の追跡調査時点で14ヶ所、6年後の追跡調査時点で28ヶ所、9年後の追跡調査時点で32ヶ所と、経年的に増加していた。



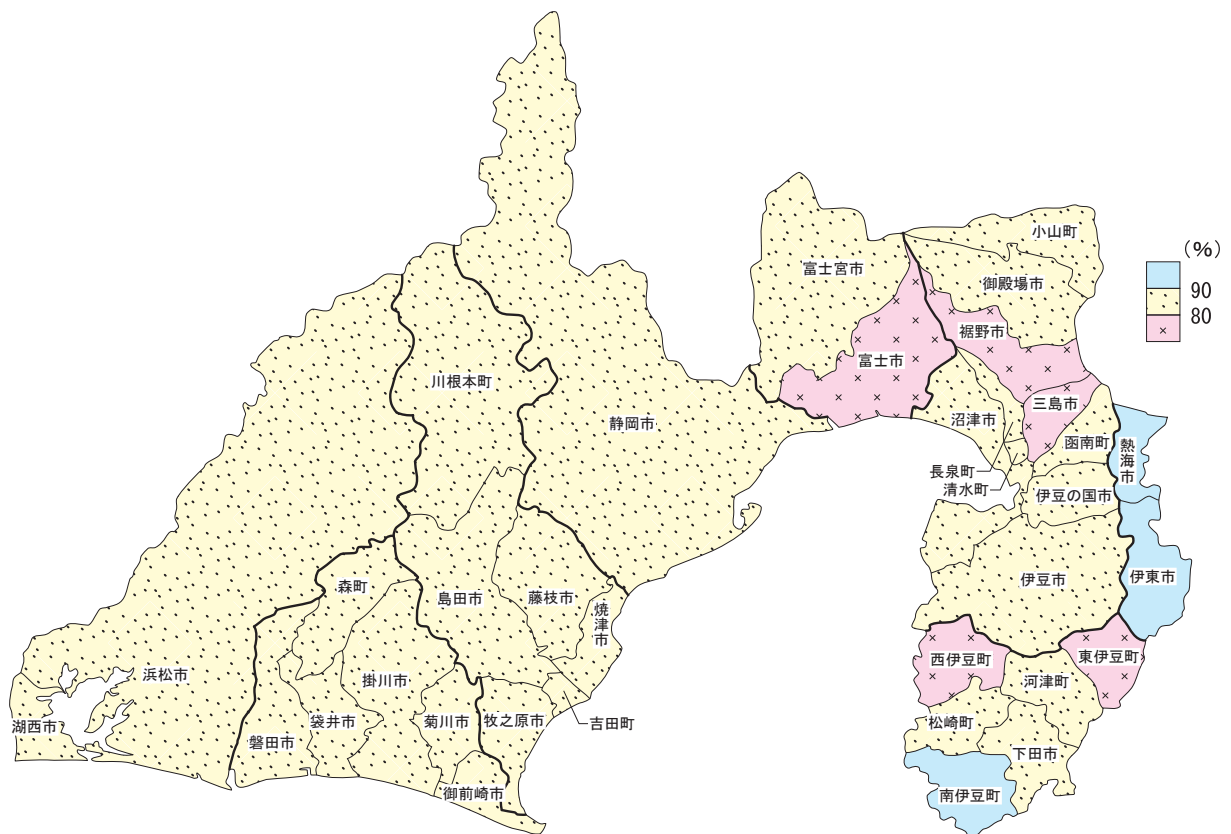
6年後（平成17年度）



9年後（平成20年度）



6年後（平成17年度）



9年後（平成20年度）

IV 考 察

高齢者の日常生活の自立という点に関しては、これまでも、自立して過ごすことに繋がる身体的、精神的、社会的要因について明らかとするため、数多くの研究が行われ成果を得ている。しかし、それらの研究の多くは、高齢者個人の自立に繋がる要因を明らかとするものであり、自立状況そのものの変化を経年的に検討した報告は少ない。また、地域という視点で、経年的に自立状況の変化を捉えた報告となるとほとんど認められないことから、本章の報告は意義があると考えられる。

自立の程度を判断することは容易ではないが、現在は介護保険制度において介護認定を受けているか否かが、客観的な判断の一つとされ、研究面でも用いられている^{1,2)}。しかし、今回報告したベースライン調査開始時は平成 11 年で介護保険制度は施行されていない。そこで、本調査では旧厚生省の「障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」でランク J の状態を自立と定義した。この定義に基づき自立者の割合を経年的に把握した結果、加齢に伴い自立者の割合が減少傾向を示した。経年的に自立者の割合を 4 時点の調査で検討したが、2 時点の調査結果に基づく先行研究^{3,4)}と同様に、数年間で自立者の割合が低下傾向を示すことが明らかとなった。

本章では高齢者の個人の変化という視点ではなく、集団として捉えて、各地区の自立状況について概観したが、ベースライン調査時点では 74 市町村であったが、その後、平成の大合併により、現在は半分以下の 35 市町となっている。74 市町村と 35 市町のマップを比較すると、74 市町村のマップでは変化が大きかった市町村が、合併して 35 市町となった際に、その変化が読み取れなくなるケースもあった。市町村合併は財政面を減らすことが、目的の一つにあると考えられるが、それに伴い様々な情報の量も減少する。これまで把握できた地域の情報量の低下は、きめ細かな保健対策を検討していく上での課題となる可能性がある。

35 市町で自立者の割合を検討した結果、静岡県内の東部・伊豆地域が、他の地域に比較して自立者の割合が低下している市町が多い傾向にあった。東部・伊豆地域は静岡県内の中でも全死亡標準化死亡比が高い⁵⁾。自立能力の低下の先は、寝たきりや死亡に繋がる可能性も高いため、自立者の割合が低い地域には、より積極的な自立支援を実施することが重要ではないかと考えられる。また、自立者の割合の低下が緩やかな地域も認められるため、それらの地域の高齢者の自立支援の対策や事業を参考にすることも必要であろう。

一方、本報告にはいくつかの課題がある。まず、大きな課題として、途中脱落者の状況を考慮せず、調査に回答のあった者だけを分析している。したがっ

て、今回の分析対象者は質問紙調査に回答できる高齢者の結果であり、地域在住の高齢者の自立状況よりも、高い自立状況となっている可能性がある。今後、追跡調査が出来なかった脱落者を考慮した分析も必要であろう。しかしながら、65歳以上の高齢者において、9年間という比較的短い期間において、自立者が1割弱、減少することは青年期や成人期では考えにくいことから、高齢になっても自立に繋がる十分な支援を実施していくことが望まれる。また、その支援をより効果的な施策とするためにも、地域の自立状況の差異にどのような社会環境的要因が影響を及ぼすのかという視点、集団の分析のみではなく高齢者個人の自立に関係する要因を検討する視点も必要である。さらに、本調査は大規模な多時点観察の縦断的調査結果を分析している。日本において同様な調査による研究は殆ど認められないことから、多時点の結果を生かした分析も実施していきたい。

以上のように、本資料は課題も多い。しかし、自立という切り口ではないが、米国疾病予防管理センターは肥満者の州ごとの地域状況をマップ化して、自然観察的な経年変化を公表している⁶⁾。この資料は、米国で肥満者がいずれの州も増加し、何らかの肥満予防対策を早急に実施する必要性があることを示したといえる。したがって、同様な観点から、地域ごと高齢者の自立状況をマップ化して、自然観察的な経年変化を示した資料は、今後の高齢者の自立支援対策を検討する上でも意義があると考えられる。

V 文 献

- 1) 大熊和行、松村義晴、福田美和、他：三重県における介護保険データを用いた健康余命の算定．日本公衆衛生雑誌 53 (6) : 437-447, 2006
- 2) 世古留美、川戸美由紀、橋本修二、他：介護保険に基づく平均自立期間の算定方法の適切生に関する調査．厚生指標 57 (2) : 31-34, 2010
- 3) 原田和宏、佐藤ゆかり、齋藤圭介、他：在宅自立高齢者における ADL と活動能力障害の出現率、および転倒既往と閉じこもりの関与．理学療法学 33 (5) : 263-271, 2006
- 4) 岩佐一、増井幸恵、権藤恭之、他：地域高齢者における性格特性と高次生活機能低下の関連．老年社会学 31 (4) : 449-457, 2010
- 5) 静岡県総合健康センター：市町村別健康指標 (XVII)．2008
- 6) Center for Disease Control and Prevention : Vital Signs: State-Specific Obesity Prevalence Among Adults - United States, 2009. Morbidity and Mortality Weekly Report 59 : 1-5, 2010

参考資料 1 (旧市町村別自立者割合)

市町別コード	市町村名	ベースライン	3年後	6年後	9年後	市町別コード	市町村名	ベースライン	3年後	6年後	9年後
22201	静岡市	96.1	89.8	84.9	88.5	22342	長泉町	92.0	90.6	92.3	88.0
22202	浜松市	79.0	88.9	87.4	74.5	22344	小山町	95.2	92.9	89.7	88.7
22203	沼津市	93.5	89.2	87.0	83.9	22361	芝川町	91.7	91.4	81.3	84.8
22204	清水市	94.6	90.9	88.9	81.3	22381	富士川町	92.5	83.2	84.0	83.5
22205	熱海市	89.4	91.5	91.3	96.3	22382	蒲原町	94.9	88.2	84.4	86.3
22206	三島市	88.5	89.9	83.6	79.5	22383	由比町	95.2	90.5	86.3	85.7
22207	富士宮市	89.9	90.1	82.1	78.3	22401	岡部町	90.7	92.4	89.1	83.8
22208	伊東市	90.4	90.8	89.6	90.7	22402	大井川町	86.8	86.3	89.9	87.9
22209	島田市	94.7	94.5	88.1	85.1	22421	御前崎町	93.4	83.4	80.2	77.6
22210	富士市	88.7	89.9	85.7	71.8	22422	相良町	96.9	95.8	87.9	77.1
22211	磐田市	93.4	90.8	85.5	81.8	22423	榛原町	91.1	85.8	82.1	83.1
22212	焼津市	87.2	86.9	83.0	78.4	22424	吉田町	93.5	92.9	84.1	86.8
22213	掛川市	90.6	89.3	88.3	85.1	22425	金谷町	90.9	92.0	95.0	88.6
22214	藤枝市	94.1	88.9	88.6	89.0	22426	川根町	94.4	91.6	91.4	80.0
22215	御殿場市	92.5	88.1	85.6	88.7	22427	中川根町	93.0	93.8	92.1	85.2
22216	袋井市	92.0	93.6	89.2	91.3	22428	本川根町	96.8	93.6	92.8	88.5
22217	天竜市	93.0	91.0	86.2	80.7	22442	大須賀町	88.3	88.6	82.0	81.1
22218	浜北市	95.5	90.0	91.7	86.6	22444	浜岡町	90.8	94.1	83.6	86.4
22219	下田市	95.5	93.2	88.7	81.4	22445	小笠町	93.1	91.3	91.2	84.4
22220	裾野市	95.9	89.3	84.2	79.7	22446	菊川町	92.9	85.4	88.3	84.9
22221	湖西市	92.0	85.0	83.8	76.8	22447	大東町	94.8	90.5	83.8	82.5
22301	東伊豆町	93.7	92.4	83.2	76.0	22461	森町	89.7	85.2	90.1	80.0
22302	河津町	94.9	94.0	85.0	87.7	22462	春野町	92.3	87.0	88.8	86.2
22304	南伊豆町	89.9	91.1	90.0	91.2	22481	浅羽町	94.2	93.2	82.8	77.4
22305	松崎町	94.6	92.0	89.3	85.5	22482	福田町	90.6	82.3	90.2	81.4
22306	西伊豆町	89.8	87.1	82.1	74.0	22483	竜洋町	95.3	97.2	83.6	80.0
22307	賀茂村	92.0	92.3	89.0	86.4	22484	豊田町	92.4	91.5	87.2	85.2
22321	伊豆長岡町	94.0	92.7	90.6	90.7	22485	豊岡村	89.6	84.8	85.0	78.5
22322	修善寺町	94.5	88.0	88.9	91.8	22486	龍山村	96.5	98.5	89.1	91.4
22323	戸田村	89.4	89.1	86.0	86.4	22487	佐久間町	88.8	87.0	89.1	89.8
22324	土肥町	94.9	94.1	86.7	81.7	22488	水窪町	92.9	92.9	86.7	91.5
22325	函南町	89.0	90.1	85.5	84.6	22502	舞阪町	94.3	91.1	85.0	75.0
22326	韮山町	90.8	90.1	88.7	84.5	22503	新居町	95.1	92.2	92.1	83.3
22327	大仁町	93.5	87.9	90.8	91.4	22505	雄踏町	97.3	93.7	86.3	89.4
22328	天城湯ヶ島町	94.0	92.0	89.9	88.9	22521	細江町	92.3	87.3	91.9	87.6
22329	中伊豆町	90.4	91.8	84.0	71.2	22522	引佐町	95.1	92.0	89.2	83.3
22341	清水町	93.9	94.7	89.6	88.5	22523	三ヶ日町	92.4	87.4	84.6	90.0

※表中の値は、ランク J に該当する者の % を示す。

参考資料 2 (現市町別自立者割合)

市町別コード	市町村名	ベースライン	3年後	6年後	9年後
22100	静岡市	95.2	89.8	86.1	85.7
22130	浜松市	92.5	90.6	88.0	86.0
22203	沼津市	91.4	89.2	86.4	85.2
22205	熱海市	89.4	91.5	91.3	96.3
22206	三島市	88.5	89.9	83.6	79.5
22207	富士宮市	90.8	90.8	81.7	82.0
22208	伊東市	90.4	90.8	89.6	90.7
22209	島田市	93.3	92.6	91.6	84.4
22210	富士市	90.6	86.3	84.8	78.0
22211	磐田市	92.2	89.3	86.3	81.4
22212	焼津市	87.0	86.6	86.6	82.9
22213	掛川市	91.3	89.5	84.7	82.8
22214	藤枝市	92.3	90.6	88.8	86.4
22215	御殿場市	92.5	88.1	85.6	88.7
22216	袋井市	93.1	93.4	86.1	85.2
22219	下田市	95.5	93.2	88.7	81.4
22220	裾野市	95.9	89.3	84.2	79.7
22221	湖西市	93.4	88.7	88.0	80.3
22222	伊豆市	93.4	91.3	87.5	83.2
22223	御前崎市	92.1	88.7	81.9	81.7
22224	菊川市	93.0	88.3	89.7	84.7
22225	伊豆の国市	92.7	90.1	90.0	88.5
22226	牧之原市	93.9	90.7	85.1	80.0
22301	東伊豆町	93.7	92.4	83.2	76.0
22302	河津町	94.9	94.0	85.0	87.7
22304	南伊豆町	89.9	91.1	90.0	91.2
22305	松崎町	94.6	92.0	89.3	85.5
22306	西伊豆町	90.8	89.5	85.2	79.5
22325	函南町	89.0	90.1	85.5	84.6
22341	清水町	93.9	94.7	89.6	88.5
22342	長泉町	92.0	90.6	92.3	88.0
22344	小山町	95.2	92.9	89.7	88.7
22424	吉田町	93.5	92.9	84.1	86.8
22429	川根本町	94.8	93.7	92.4	87.0
22461	森町	89.7	85.2	90.1	80.0

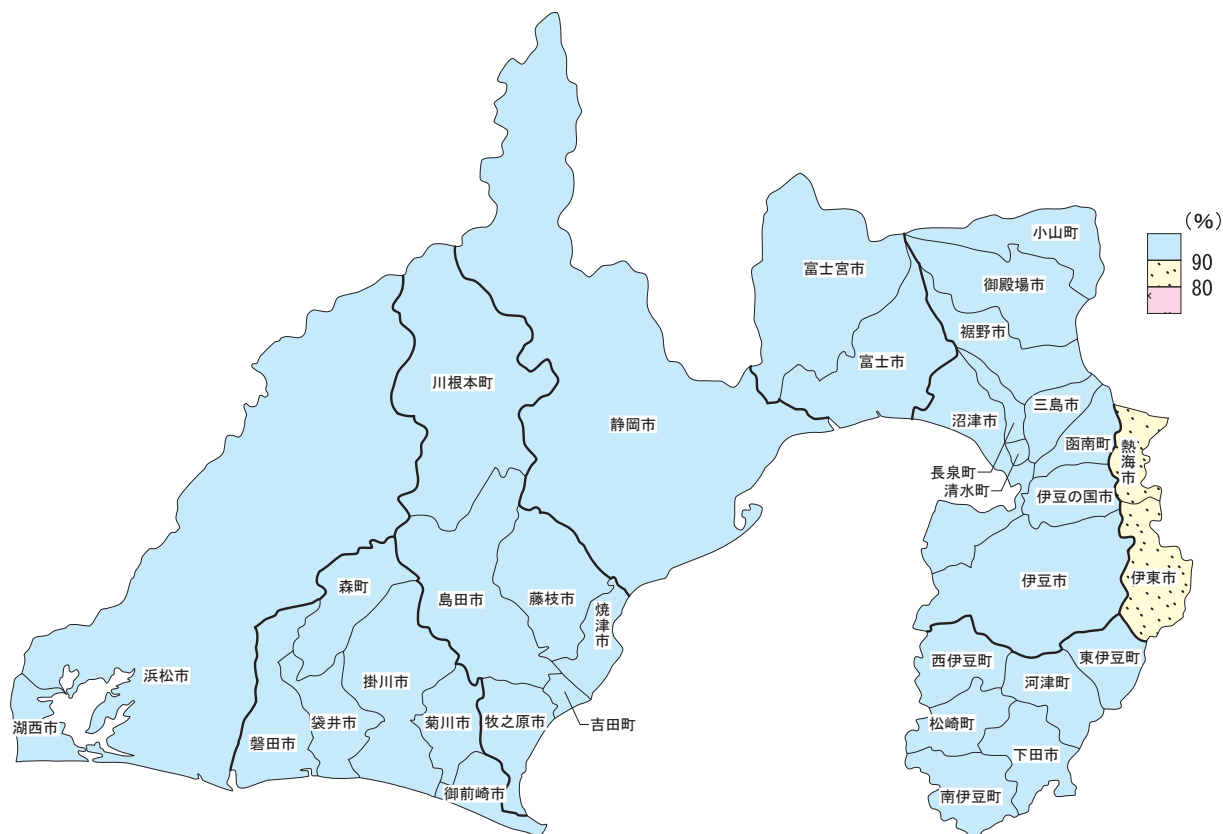
※表中の値は、ランク J に該当する者の%を示す。

参考資料3 (現保健所別自立者割合)

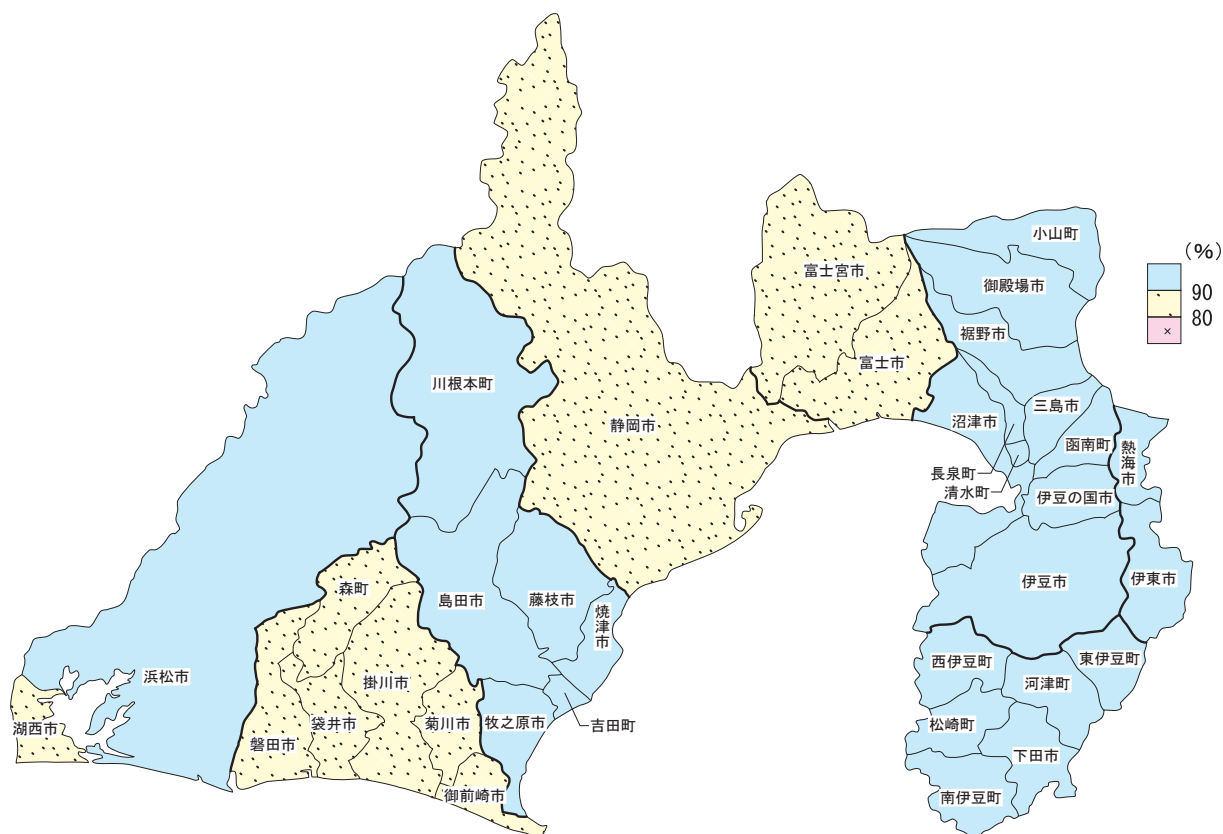
保健所	ベースライン	3年後	6年後	9年後
静岡	95.2	89.8	86.1	85.7
浜松	92.5	90.6	88.0	86.0
東部	92.4	90.7	87.7	84.8
熱海	89.9	91.1	90.4	93.8
富士	90.7	88.5	83.3	79.9
中部	92.6	91.3	88.8	84.4
西部	92.2	89.3	86.3	82.2
御殿場	93.9	90.7	87.8	88.7
賀茂	92.8	91.6	86.6	83.2

※表中の値は、ランク J に該当する者の%を示す。

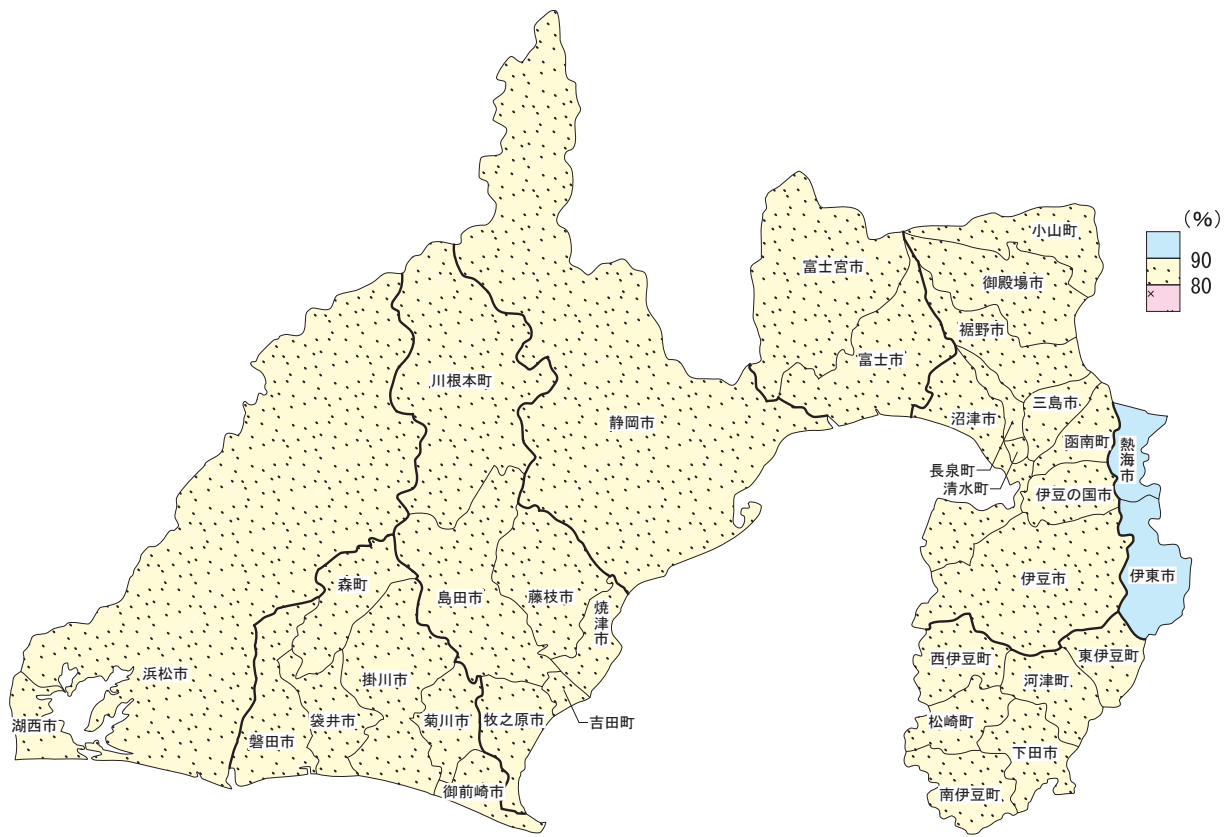
参考資料4 (現保健所別自立者割合の変化)



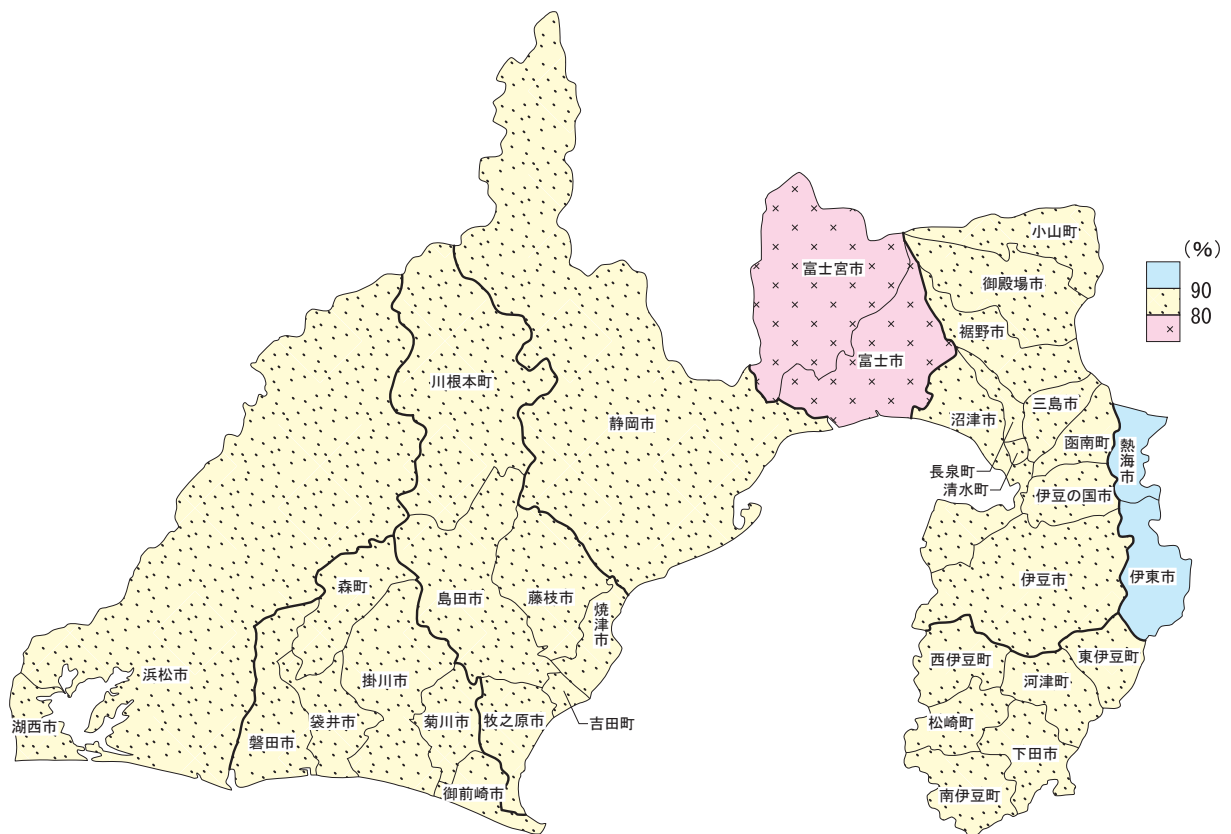
ベースライン (平成11年度)



3年後 (平成14年度)



6年後（平成17年度）



9年後（平成20年度）

第 2 章

高齢者における要介護状態と身体・心理・社会的
要因との関連についての研究

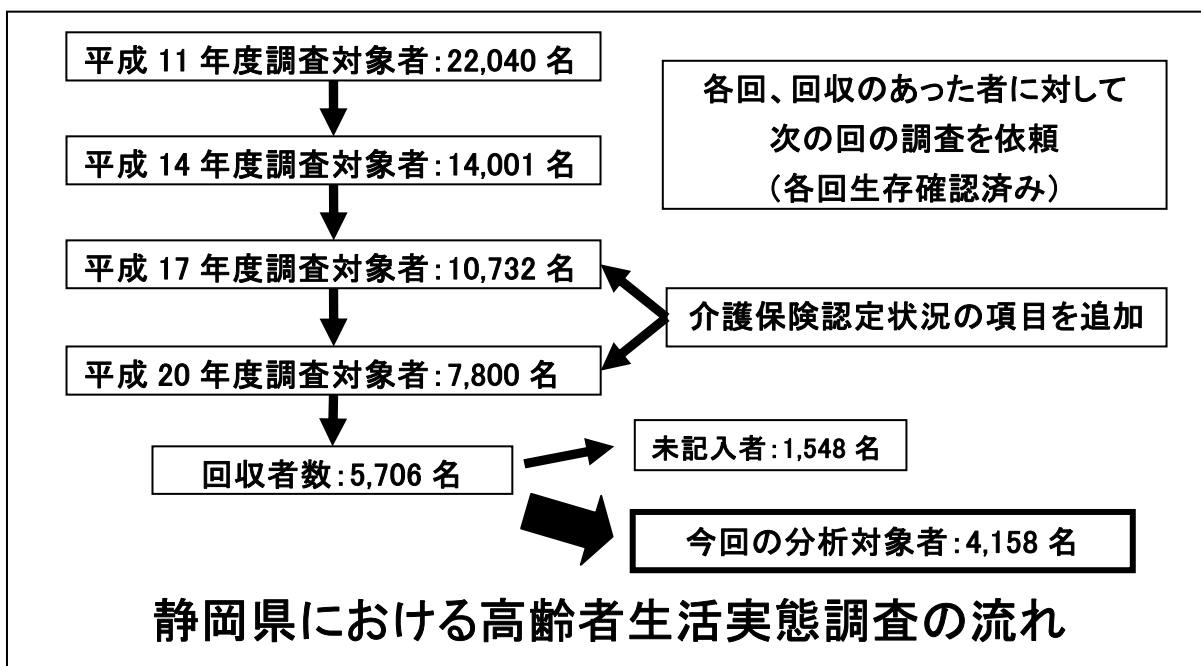
I 目的

平成 11 年から、10 年計画で 3 年ごとに「高齢者の生活実態調査」を縦断的に実施してきた。平成 17 年度調査からは、介護保険認定状況の項目を追加し、分析を行った^{3),4)}。今回は、高齢になっても活動的に生活するための要件を明らかにし、活動的余命をより長くするための支援方法を検討する資料づくりを行う目的で、要介護状態と身体・心理・社会的要因との関連性について明らかにする。

II 方法

1 調査客体と抽出の方法

平成 11 年度、静岡県内の各市町の住民基本台帳より、男女別、年齢階層別（前期・後期）に 300 名ずつ無作為に抽出した高齢者 22,040 名に対して、10 年間の計画でコホートによる「高齢者の生活実態縦断調査」を実施した¹⁾。その後、平成 14²⁾、17³⁾、20 年度⁴⁾に、同一の方法で調査を縦断的に実施した。今回は、平成 20 年度の調査結果についてまとめた。



2 調査方法

郵送による、記名自記式配票調査法

3 調査内容

静岡県における「高齢者の生活実態調査」の質問項目のうち、以下を今回の分析で使用した。

(1) 介護保険認定区分（非該当、要支援、要介護 1～5）（平成 17 年度調査～）

- (2) 基本情報（年齢、性別）
- (3) 生活活動力（5項目）
- (4) 身体活動（4項目）
- (5) 食事、緑茶摂取、飲酒、喫煙に関する項目（7項目）
- (6) 社会活動（仕事、地域活動、市民講座や趣味の会への参加等）（5項目）
- (7) 生活満足度（健康感、精神的健康感、精神的活力、人的サポート満足）（16項目）
- (8) 経済的状况（経済的満足を含む）（3項目）
- (9) 疾病・障害（疾患の有無、視聴覚・歯の障害の有無）（14項目）
- (10) その他（3項目）

(3)、(7)は、太田らによる「地域高齢者のための QOL 質問表」⁵⁾の内容に基づいて質問項目を作成した。

4 調査時期

平成 20 年 12 月 16 日～平成 21 年 1 月 31 日

5 倫理的配慮

調査対象者個人には、プライバシーの保護および調査参加への任意性を保証するため、書面による依頼を行い、回収は個人単位で郵送による回収とした。また、調査データの保管については、個人名はコード番号に変換してパソコン入力を行った。さらに、調査データと名簿（個人名、住所等が記載されたもの）とを、それぞれ鍵のかかる保管庫を使用して別々に管理した。また、この調査は、平成 20 年度静岡県総合健康センター倫理審査委員会からの承認を得た。

6 分析方法

認知機能低下による調査結果のバイアスを避けるため、改訂版長谷川式簡易知能評価スケール⁶⁾の基準に従って、住民台帳から得られた年齢と、自書した年齢との間に 3 歳以上の差がある者、実際と異なる性別を選択した者は、分析対象から除外した。また、群の分類は介護保険の認定を受けていない者を『非該当群』、「要支援」と「要介護 1」を『軽度介護群』、「要介護 2」～「要介護 5」を『重度介護群』の 3 群とした。生活実態や生活満足度、疾患・障害それぞれの項目が、要介護状態によって分布の仕方に違いがあるかどうかを、 χ^2 検定で明らかにした。なお、解析は統計ソフト SPSS Version16.0 を用いた。

Ⅲ 結果

1 対象者の概要

平成17年度調査から引き続き、回答への協力が得られた7,800名に対して、平成20年度調査を行い、5,706名（回収率73.2%）から回収が得られた（男性2,711名、女性2,995名）。表1の介護保険認定区分の内訳をみると、非該当群が3,413名（59.8%）、軽度介護群は364名（6.4%）、重度介護群は381人（6.7%）であった。未記入者は1,548名（27.1%）であった。さらに「軽度介護群」と「重度介護群」の内訳は、「要支援（1、2）」205名、「要介護1」159名、「要介護2」149名、「要介護3」81名、「要介護4」96名、「要介護5」55名であった。

表1 男女別介護認定区分の内訳

		非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未記入	合計
男性	度数	1,756	63	59	59	34	36	22	682	2,711
	%	64.8%	2.3%	2.2%	2.2%	1.3%	1.3%	0.8%	25.2%	100.0%
女性	度数	1,657	142	100	90	47	60	33	866	2,995
	%	55.3%	4.7%	3.3%	3.0%	1.6%	2.0%	1.1%	28.9%	100.0%
合計	度数	3,413	205	159	149	81	96	55	1,548	5,706
	%	59.8%	3.6%	2.8%	2.6%	1.4%	1.7%	1.0%	27.1%	100.0%
		非該当群	軽度介護群		重度介護群			未記入	合計	
男性	度数	1,756	122		151			682	2,711	
	%	64.8%	4.5%		5.6%			25.2%	100.0%	
女性	度数	1,657	242		230			866	2,995	
	%	55.3%	8.1%		7.7%			28.9%	100.0%	
合計	度数	3,413	364		381			1,548	5,706	
	%	59.8%	6.4%		6.7%			27.1%	100.0%	

性別と介護認定区分（表2）、年齢と介護認定区分（表3）それぞれのクロス集計結果から、 χ^2 検定の結果、有意水準1%で有意差が認められた（表2以降は、介護認定区分が不明の者1,548名を除いた、4,158名を対象としてクロス集計した）。

表2 性と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
男性	度数	1,756	122	151	2,029	56.44	**
	%	51.5%	33.5%	39.6%	48.8%		
女性	度数	1,657	242	230	2,129		
	%	48.5%	66.5%	60.4%	51.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

表3 年齢区分と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
70～74歳	度数	165	7	1	173	403.69	**
	%	4.8%	1.9%	0.3%	4.2%		
75～79歳	度数	1,357	51	49	1,457		
	%	39.8%	14.0%	12.9%	35.0%		
80～84歳	度数	1,051	111	84	1,246		
	%	30.8%	30.5%	22.0%	30.0%		
85歳以上	度数	835	195	244	1,274		
	%	24.5%	53.6%	64.0%	30.6%		
未記入	度数	5	0	3	8		
	%	0.1%	0.0%	0.8%	0.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

2 生活活動力

「バスや電車を使ってひとりで外出ができる」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,699名（79.1%）、軽度介護群82名（22.5%）、重度介護群28名（7.3%）だった。

表4 「バスや電車を使ってひとりで外出できる」の可否と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,699	82	28	2,809	1240.03	**
	%	79.1%	22.5%	7.3%	67.6%		
いいえ	度数	576	263	324	1,163		
	%	16.9%	72.3%	85.0%	28.0%		
未記入	度数	138	19	29	186		
	%	4.0%	5.2%	7.6%	4.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「日用品の買い物が自分でできる」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,987名（87.5%）、軽度介護群で137名（37.6%）、重度介護群38名（10.0%）だった。

表5 「日用品の買い物が自分でできる」の可否と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,987	137	38	3,162	1553.70	**
	%	87.5%	37.6%	10.0%	76.0%		
いいえ	度数	321	213	316	850		
	%	9.4%	58.5%	82.9%	20.4%		
未記入	度数	105	14	27	146		
	%	3.1%	3.8%	7.1%	3.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「食事の支度が自分でできる」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,606名（76.4%）、軽度介護群143名（39.3%）、重度介護群34名（8.9%）だった。

表6 「食事の支度が自分でできる」の可否と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,606	143	34	2,783	886.76	**
	%	76.4%	39.3%	8.9%	66.9%		
いいえ	度数	668	206	319	1,193		
	%	19.6%	56.6%	83.7%	28.7%		
未記入	度数	139	15	28	182		
	%	4.1%	4.1%	7.3%	4.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「自分の身の周りのことができる」について、「はい」と回答した者は、非該当群3,243名(95.0%)、軽度介護群295名(81.0%)、重度介護群103名(27.0%)だった。

表7 「自分の身の回りのことができる」の可否と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	3,243	295	103	3,641	1725.77	**
	%	95.0%	81.0%	27.0%	87.6%		
いいえ	度数	75	54	249	378		
	%	2.2%	14.8%	65.4%	9.1%		
未記入	度数	95	15	29	139		
	%	2.8%	4.1%	7.6%	3.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「金銭の管理や計算が自分でできる」について、「はい」と回答した者は、非該当群31,64名(92.7%)、軽度介護群252名(69.2%)、重度介護群100名(26.2%)だった。

表8 「金銭の管理や計算が自分でできる」の可否と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	3,164	252	100	3,516	1370.67	**
	%	92.7%	69.2%	26.2%	84.6%		
いいえ	度数	155	99	255	509		
	%	4.5%	27.2%	66.9%	12.2%		
未記入	度数	94	13	26	133		
	%	2.8%	3.6%	6.8%	3.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

3 ライフスタイル(身体活動)

「1日30分以上の歩行を伴う外出」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群2,405名（70.5%）、軽度介護群135名（37.0%）、重度介護群58名（15.2%）だった。一方、「しない」と回答した者は、非該当群858名（25.1%）、軽度介護群212名（58.2%）、重度介護群301名（79.0%）だった。その他の回答状況は、表9に示す。

表9 「1日あたり30分以上の歩行を伴う外出の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
しない	度数 858 % 25.1%	212 58.2%	301 79.0%	1,371 33.0%	606.29	**
週1～2回	度数 729 % 21.4%	63 17.3%	31 8.1%	823 19.8%		
週3～4回	度数 746 % 21.9%	43 11.8%	16 4.2%	805 19.4%		
週5回以上	度数 930 % 27.2%	29 8.0%	11 2.9%	970 23.3%		
未記入	度数 150 % 4.4%	17 4.7%	22 5.8%	189 4.5%		
合計	度数 3,413 % 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「歩く速さ」が同じ年齢の人に比べて速いか否かについて、「速い」と回答した者は、非該当群で771名（22.6%）、軽度介護群13名（3.6%）、重度介護群15名（3.9%）だった。また、「同じくらい」と回答した者は、非該当群1,326名（38.9%）、軽度介護群57名（15.7%）、重度介護群21名（5.5%）だった。その他の回答状況は、表10に示す。

表10 「歩く速さの程度」と介護認定区分ののクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
速い	度数 771 % 22.6%	13 3.6%	15 3.9%	799 19.2%	823.73	**
同じ位	度数 1,326 % 38.9%	57 15.7%	21 5.5%	1,404 33.8%		
遅い	度数 972 % 28.5%	236 64.8%	152 39.9%	1,360 32.7%		
わからない	度数 114 % 3.3%	32 8.8%	90 23.6%	236 5.7%		
未記入	度数 230 % 6.7%	26 7.1%	103 27.0%	359 8.6%		
合計	度数 3,413 % 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

質問内容:「歩く速さは同じ年齢の人に比べて速い方だと思いますか」

「1日30分以上の運動」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群1,703名（49.9%）、軽度介護群94名（25.8%）、重度介護群36名（9.4%）だった。一方、「しない」と回答した者は、非該当群1,426名（41.8%）、軽度介護群251名（69.0%）、重度介護群308名（80.8%）だった。その他の回答状況は、表11に示す。

表11 「1日あたり30分以上の運動の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
しない	度数	1,426	251	308	1,985	313.11	**
	%	41.8%	69.0%	80.8%	47.7%		
週1～2回	度数	611	43	18	672		
	%	17.9%	11.8%	4.7%	16.2%		
週3～4回	度数	527	28	9	564		
	%	15.4%	7.7%	2.4%	13.6%		
週5回以上	度数	565	23	9	597		
	%	16.6%	6.3%	2.4%	14.4%		
未記入	度数	284	19	37	340		
	%	8.3%	5.2%	9.7%	8.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「1日30分以上の作業」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群2,629名（77.0%）、軽度介護群145名（39.8%）、重度介護群49名（12.9%）だった。一方、「しない」と回答した者は、非該当群513名（15.0%）、軽度介護群198名（54.4%）、重度介護群293名（76.9%）だった。その他の回答状況は、表12に示す。

表12 「1日あたり30分以上の作業の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
しない	度数	513	198	293	1,004	983.26	**
	%	15.0%	54.4%	76.9%	24.1%		
週1～2回	度数	472	55	21	548		
	%	13.8%	15.1%	5.5%	13.2%		
週3～4回	度数	673	41	9	723		
	%	19.7%	11.3%	2.4%	17.4%		
週5回以上	度数	1,484	49	19	1,552		
	%	43.5%	13.5%	5.0%	37.3%		
未記入	度数	271	21	39	331		
	%	7.9%	5.8%	10.2%	8.0%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「1日あたりの食事回数」について、「1日3回」と回答した者は、非該当群3,118名（91.4%）、軽度介護群330名（90.7%）、重度介護群328名（86.1%）だった。一方、「1日2回」と回答した者は、非該当群76名（2.2%）、軽度介護群10名（2.7%）、重度介護群15名（3.9%）だった。その他の回答状況は、表13に示す。

表13 「1日あたりの食事回数」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
1日1回	度数 6 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	6 0.1%	20.77	**
1日2回	度数 76 2.2%	10 2.7%	15 3.9%	101 2.4%		
1日3回	度数 3,118 91.4%	330 90.7%	328 86.1%	3,776 90.8%		
1日4回以上	度数 18 0.5%	6 1.6%	3 0.8%	27 0.6%		
未記入	度数 195 5.7%	18 4.9%	35 9.2%	248 6.0%		
合計	度数 3,413 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「1日あたりの肉・魚・大豆等たんぱく質摂取頻度」について、「1日3回以上」と回答した者は、非該当群941名（27.6%）、軽度介護群91名（25.0%）、重度介護群103名（27.0%）だった。一方、「ほとんど食べない」と回答した者は、非該当群10名（0.3%）、軽度介護群4名（1.1%）、重度介護群12名（3.1%）だった。その他の回答状況は、表14に示す。

表14 「1日あたりの肉・魚・大豆等たんぱく質摂取頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
ほとんど食べない	度数 10 0.3%	4 1.1%	12 3.1%	26 0.6%	71.97	**
1日1回	度数 925 27.1%	111 30.5%	99 26.0%	1,135 27.3%		
1日2回	度数 1,328 38.9%	137 37.6%	121 31.8%	1,586 38.1%		
1日3回以上	度数 941 27.6%	91 25.0%	103 27.0%	1,135 27.3%		
未記入	度数 209 6.1%	21 5.8%	46 12.1%	276 6.6%		
合計	度数 3,413 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「1日あたりの野菜摂取頻度」について、「1日3回以上」と回答した者は、非該当群1,481名（43.4%）、軽度介護群135名（37.1%）、重度介護群148名（38.8%）だった。一方、「ほとんど食べない」と回答した者は、非該当群23名（0.7%）、軽度介護群7名（1.9%）、重度介護群11名（2.9%）だった。その他の回答状況は、表15に示す。

表15 「1日あたりの野菜摂取頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
ほとんど食べない	度数 23 % 0.7%	7 1.9%	11 2.9%	41 1.0%	52.74	**
1日1回	502 14.7%	70 19.2%	62 16.3%	634 15.2%		
1日2回	1,208 35.4%	136 37.4%	116 30.4%	1,460 35.1%		
1日3回以上	1,481 43.4%	135 37.1%	148 38.8%	1,764 42.4%		
未記入	199 5.8%	16 4.4%	44 11.5%	259 6.2%		
合計	3,413 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「1日あたりの緑茶摂取頻度」について、「1日7杯以上」と回答した者は、非該当群628名（18.4%）、軽度介護群38名（10.4%）、重度介護群17名（4.5%）だった。一方、「ほとんど飲まない」と回答した者は、非該当群78名（2.3%）、軽度介護群13名（3.6%）、重度介護群26名（6.8%）だった。その他の回答状況は、表16に示す。

表16 「1日あたりの緑茶摂取頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
ほとんど飲まない	度数 78 % 2.3%	13 3.6%	26 6.8%	117 2.8%	136.00	**
1日1～3杯	871 25.5%	129 35.4%	158 41.5%	1,158 27.8%		
1日4～6杯	1,638 48.0%	167 45.9%	141 37.0%	1,946 46.8%		
1日7杯以上	628 18.4%	38 10.4%	17 4.5%	683 16.4%		
未記入	198 5.8%	17 4.7%	39 10.2%	254 6.1%		
合計	3,413 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「食欲の有無」について、「ある」と回答した者は、非該当群2,970名（87.0%）、軽度介護群278名（76.4%）、重度介護群271名（71.1%）だった。

表17 「食欲の有無」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
ある	度数 2,970 % 87.0%	278 76.4%	271 71.1%	3,519 84.6%	124.37	**
あまりない	度数 208 % 6.1%	66 18.1%	62 16.3%	336 8.1%		
未記入	度数 235 % 6.9%	20 5.5%	48 12.6%	303 7.3%		
合計	度数 3,413 % 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「飲酒頻度」について、「飲まない」と回答した者は、非該当群2,272名（66.6%）、軽度介護群302名（83.0%）、重度介護群322名（84.5%）だった。一方、「毎日飲む」と回答した者は、非該当群469名（13.7%）、軽度介護群19名（5.2%）、重度介護群13名（3.4%）だった。その他の回答状況は、表18に示す。

表18 「飲酒頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
飲まない	度数 2,272 % 66.6%	302 83.0%	322 84.5%	2,896 69.6%	108.11	**
週1～3回	度数 278 % 8.1%	16 4.4%	8 2.1%	302 7.3%		
週4～6回	度数 166 % 4.9%	7 1.9%	7 1.8%	180 4.3%		
毎日飲む	度数 469 % 13.7%	19 5.2%	13 3.4%	501 12.0%		
未記入	度数 228 % 6.7%	20 5.5%	31 8.1%	279 6.7%		
合計	度数 3,413 % 100.0%	364 100.0%	381 100.0%	4,158 100.0%		

「喫煙状況」について、「吸わない」と回答した者は、非該当群2,621名（76.8%）、軽度介護群304名（83.5%）、重度介護群312名（81.9%）だった。一方、「吸う」と回答した者は、非該当群218名（6.4%）、軽度介護群10名（2.7%）、重度介護群18名（4.7%）だった。その他の回答状況は、表19に示す。

表19 「喫煙状況」と介護認定区分のクロス集計結果

	非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
吸わない	2,621	304	312	3,237	24.44	**
度数	76.8%	83.5%	81.9%	77.8%		
以前吸っていた	325	22	18	365		
度数	9.5%	6.0%	4.7%	8.8%		
吸う	218	10	18	246		
度数	6.4%	2.7%	4.7%	5.9%		
未記入	249	28	33	310		
度数	7.3%	7.7%	8.7%	7.5%		
合計	3,413	364	381	4,158		
度数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

4 社会活動

「収入を伴う仕事の頻度」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群431名（12.6%）、軽度介護群10名（2.7%）、重度介護群5名（1.3%）だった。一方、「なし」と回答した者は、非該当群2,679名（78.5%）、軽度介護群329名（90.4%）、重度介護群340名（80.5%）だった。その他の回答状況は、表20に示す。

表20 「収入を伴う仕事の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
なし	度数	2,679	329	340	3,348	79.08	**
	%	78.5%	90.4%	89.2%	80.5%		
週1～2回	度数	122	7	2	131		
	%	3.6%	1.9%	0.5%	3.2%		
週3～4回	度数	170	0	3	173		
	%	5.0%	0.0%	0.8%	4.2%		
週5回以上	度数	139	3	0	142		
	%	4.1%	0.8%	0.0%	3.4%		
未記入	度数	303	25	36	364		
	%	8.9%	6.9%	9.4%	8.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「家事等収入を得ない仕事・作業の頻度」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群2,486名（72.8%）、軽度介護群136名（37.4%）、重度介護群44名（11.5%）だった。一方、「なし」と回答した者は、非該当群781名（22.9%）、軽度介護群210名（57.7%）、重度介護群316名（82.9%）だった。その他の回答状況は、表21に示す。

表21 「家事等収入を得ない仕事・作業の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
なし	度数	781	210	316	1,307	743.27	**
	%	22.9%	57.7%	82.9%	31.4%		
週1～2回	度数	289	33	12	334		
	%	8.5%	9.1%	3.1%	8.0%		
週3～4回	度数	942	52	20	1,014		
	%	27.6%	14.3%	5.2%	24.4%		
週5回以上	度数	1,255	51	12	1,318		
	%	36.8%	14.0%	3.1%	31.7%		
未記入	度数	146	18	21	185		
	%	4.3%	4.9%	5.5%	4.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「ボランティア活動の頻度」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群838名（24.6%）、軽度介護群25名（6.9%）、重度介護群7名（1.8%）だった。一方、「なし」と回答した者は、非該当群2,429名（71.2%）、軽度介護群328名（90.1%）、重度介護群354名（92.9%）だった。その他の回答状況は、表22に示す。

表22 「ボランティア活動の頻度」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
なし	度数	2,429	328	354	3,111	159.73	**
	%	71.2%	90.1%	92.9%	74.8%		
週1～2回	度数	635	21	5	661		
	%	18.6%	5.8%	1.3%	15.9%		
週3～4回	度数	173	2	2	177		
	%	5.1%	0.5%	0.5%	4.3%		
週5回以上	度数	30	2	0	32		
	%	0.9%	0.5%	0.0%	0.8%		
未記入	度数	146	11	20	177		
	%	4.3%	3.0%	5.2%	4.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「自分以外の人世話」について、「週1～2回」～「週5日以上」を回答した者の合計は、非該当群1,356名（39.7%）、軽度介護群55名（15.1%）、重度介護群14名（3.7%）だった。一方、「なし」と回答した者は、非該当群1,911名（56.0%）、軽度介護群294名（80.8%）、重度介護群344名（90.3%）だった。その他の回答状況は、表23に示す。

表23 「自分以外の人世話」の頻度介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
なし	度数	1,911	294	344	2,549	265.92	**
	%	56.0%	80.8%	90.3%	61.3%		
週1～2回	度数	510	20	6	536		
	%	14.9%	5.5%	1.6%	12.9%		
週3～4回	度数	406	15	5	426		
	%	11.9%	4.1%	1.3%	10.2%		
週5回以上	度数	440	20	3	463		
	%	12.9%	5.5%	0.8%	11.1%		
未記入	度数	146	15	23	184		
	%	4.3%	4.1%	6.0%	4.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「学習的活動の参加状況」について、「現在参加」と回答した者は、非該当群1,108名（32.5%）、軽度介護群49名（13.5%）、重度介護群17名（4.5%）だった。一方、「なし」と回答した者は、非該当群1,625名（47.6%）、軽度介護群239名（65.7%）、重度介護群313名（82.2%）だった。その他の回答状況は、表24に示す。

表24 「学習的活動の参加状況」と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
なし	度数	1,625	239	313	2,177	263.87	**
	%	47.6%	65.7%	82.2%	52.4%		
ここ1年で参加	度数	553	53	20	626		
	%	16.2%	14.6%	5.2%	15.1%		
現在参加	度数	1,108	49	17	1,174		
	%	32.5%	13.5%	4.5%	28.2%		
未記入	度数	127	23	31	181		
	%	3.7%	6.3%	8.1%	4.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

学習的活動:市民講座、老人学級、趣味の講座など

6 生活満足度

「現在の生活に満足している」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,750名（80.6%）、軽度介護群245名（67.3%）、重度介護群197名（51.7%）だった。

表25 「現在の生活に満足している」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,750	245	197	3,192	217.85	**
	%	80.6%	67.3%	51.7%	76.8%		
いいえ	度数	318	76	121	515		
	%	9.3%	20.9%	31.8%	12.4%		
未記入	度数	345	43	63	451		
	%	10.1%	11.8%	16.5%	10.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「健康だと感じている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,126名（62.3%）、軽度介護群125名（34.3%）、重度介護群88名（23.1%）だった。

表26 「健康だと感じている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,126	125	88	2,339	333.04	**
	%	62.3%	34.3%	23.1%	56.3%		
いいえ	度数	872	197	230	1,299		
	%	25.5%	54.1%	60.4%	31.2%		
未記入	度数	415	42	63	520		
	%	12.2%	11.5%	16.5%	12.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「体調がすぐれないことが多い」について、「いいえ」と回答した者は、非該当群2,365名（69.3%）、軽度介護群167名（45.9%）、重度介護群149名（39.1%）だった。

表27 「体調がすぐれないことが多い」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	552	147	149	848	230.23	**
	%	16.2%	40.4%	39.1%	20.4%		
いいえ	度数	2,365	167	162	2,694		
	%	69.3%	45.9%	42.5%	64.8%		
未記入	度数	496	50	70	616		
	%	14.5%	13.7%	18.4%	14.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「毎日気分よく過ごせる」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,532名（74.2%）、軽度介護群183名（50.3%）、重度介護群158名（41.5%）だった。

表28 「毎日気分よく過ごせる」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,532	183	158	2,873	293.75	**
	%	74.2%	50.3%	41.5%	69.1%		
いいえ	度数	465	131	156	752		
	%	13.6%	36.0%	40.9%	18.1%		
未記入	度数	416	50	67	533		
	%	12.2%	13.7%	17.6%	12.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「元気だと感じている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,377名（69.6%）、軽度介護群158名（43.4%）、重度介護群108名（28.3%）だった。

表29 「元気だと感じている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,377	158	108	2,643	379.86	**
	%	69.6%	43.4%	28.3%	63.6%		
いいえ	度数	602	156	202	960		
	%	17.6%	42.9%	53.0%	23.1%		
未記入	度数	434	50	71	555		
	%	12.7%	13.7%	18.6%	13.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「将来に不安を感じている」について、「いいえ」と回答した者は、非該当群1,787名（52.4%）、軽度介護群126名（34.6%）、重度介護群127名（33.3%）だった。

表30 「将来に不安を感じている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	1,184	198	182	1,564	98.44	**
	%	34.7%	54.4%	47.8%	37.6%		
いいえ	度数	1,787	126	127	2,040		
	%	52.4%	34.6%	33.3%	49.1%		
未記入	度数	442	40	72	554		
	%	13.0%	11.0%	18.9%	13.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「寂しいと感じることがある」について、「いいえ」と回答した者は、非該当群2,151名（63.0%）、軽度介護群125名（34.3%）、重度介護群119名（31.2%）だった。

表31 「寂しいと感じることがある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	817	192	190	1,199	265.42	**
	%	23.9%	52.7%	49.9%	28.8%		
いいえ	度数	2,151	125	119	2,395		
	%	63.0%	34.3%	31.2%	57.6%		
未記入	度数	445	47	72	564		
	%	13.0%	12.9%	18.9%	13.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「自分が無力だと感じることがある」について、「いいえ」と回答した者は、非該当群1,793名（52.5%）、軽度介護群91名（25.0%）、重度介護群77名（20.2%）だった。

表32 「自分が無力だと感じることがある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	1,149	229	231	1,609	250.48	**
	%	33.7%	62.9%	60.6%	38.7%		
いいえ	度数	1,793	91	77	1,961		
	%	52.5%	25.0%	20.2%	47.2%		
未記入	度数	471	44	73	588		
	%	13.8%	12.1%	19.2%	14.1%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「気分が落ち込むことがある」について、「いいえ」と回答した者は、非該当群2,029名（59.4%）、軽度介護群114名（31.3%）、重度介護群115名（30.2%）だった。

表33 「気分が落ち込むことがある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	920	200	192	1,312	229.99	**
	%	27.0%	54.9%	50.4%	31.6%		
いいえ	度数	2,029	114	115	2,258		
	%	59.4%	31.3%	30.2%	54.3%		
未記入	度数	464	50	74	588		
	%	13.6%	13.7%	19.4%	14.1%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「将来に夢や希望がある」について、「はい」と回答した者は、非該当群1,419名（41.6%）、軽度介護群70名（19.2%）、重度介護群42名（11.0%）だった。

表34 「将来に夢や希望がある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	1,419	70	42	1,531	205.31	**
	%	41.6%	19.2%	11.0%	36.8%		
いいえ	度数	1,504	248	266	2,018		
	%	44.1%	68.1%	69.8%	48.5%		
未記入	度数	490	46	73	609		
	%	14.4%	12.6%	19.2%	14.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「生きがいを持っている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,390名（70.0%）、軽度介護群161名（44.2%）、重度介護群86名（22.6%）だった。

表35 「生きがいを持っている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,390	161	86	2,637	483.10	**
	%	70.0%	44.2%	22.6%	63.4%		
いいえ	度数	568	157	220	945		
	%	16.6%	43.1%	57.7%	22.7%		
未記入	度数	455	46	75	576		
	%	13.3%	12.6%	19.7%	13.9%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「趣味を持っている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,375名（69.6%）、軽度介護群158名（43.4%）、重度介護群82名（21.5%）だった。

表36 「趣味を持っている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,375	158	82	2,615	417.61	**
	%	69.6%	43.4%	21.5%	62.9%		
いいえ	度数	895	191	271	1,357		
	%	26.2%	52.5%	71.1%	32.6%		
未記入	度数	143	15	28	186		
	%	4.2%	4.1%	7.3%	4.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「毎日の生活で気力を感じている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,460名（72.1%）、軽度介護群157名（43.1%）、重度介護群98名（25.7%）だった。

表37 「毎日の生活で気力を感じている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,460	157	98	2,715	489.01	**
	%	72.1%	43.1%	25.7%	65.3%		
いいえ	度数	533	158	210	901		
	%	15.6%	43.4%	55.1%	21.7%		
未記入	度数	420	49	73	542		
	%	12.3%	13.5%	19.2%	13.0%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「周りの人とうまくいっている」について、「はい」と回答した者は、非該当群3,014名（88.3%）、軽度介護群295名（81.0%）、重度介護群263名（69.0%）だった。

表38 「周りの人とうまくいっている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	3,014	295	263	3,572	154.76	**
	%	88.3%	81.0%	69.0%	85.9%		
いいえ	度数	82	29	48	159		
	%	2.4%	8.0%	12.6%	3.8%		
未記入	度数	317	40	70	427		
	%	9.3%	11.0%	18.4%	10.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「友人との付き合いに満足している」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,856名（83.7%）、軽度介護群256名（70.3%）、重度介護群172名（45.1%）だった。

表39 「友人との付き合いに満足している」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,856	256	172	3,284	390.16	**
	%	83.7%	70.3%	45.1%	79.0%		
いいえ	度数	192	65	115	372		
	%	5.6%	17.9%	30.2%	8.9%		
未記入	度数	365	43	94	502		
	%	10.7%	11.8%	24.7%	12.1%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「家族との付き合いに満足している」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,903名（85.1%）、軽度介護群290名（79.7%）、重度介護群262名（68.8%）だった。

表40 「家族との付き合いに満足している」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,903	290	262	3,455	76.75	**
	%	85.1%	79.7%	68.8%	83.1%		
いいえ	度数	172	37	44	253		
	%	5.0%	10.2%	11.5%	6.1%		
未記入	度数	338	37	75	450		
	%	9.9%	10.2%	19.7%	10.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「近所付き合いに満足している」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,860名（83.8%）、軽度介護群250名（68.7%）、重度介護群162名（42.5%）だった。

表41 「近所付き合いに満足している」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,860	250	162	3,272	419.37	**
	%	83.8%	68.7%	42.5%	78.7%		
いいえ	度数	210	70	119	399		
	%	6.2%	19.2%	31.2%	9.6%		
未記入	度数	343	44	100	487		
	%	10.0%	12.1%	26.2%	11.7%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「ある程度お金に余裕がある」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,170名（63.6%）、軽度介護群205名（56.3%）、重度介護群194名（50.9%）だった。

表42 「ある程度お金に余裕がある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,170	205	194	2,569	30.86	**
	%	63.6%	56.3%	50.9%	61.8%		
いいえ	度数	887	108	125	1,120		
	%	26.0%	29.7%	32.8%	26.9%		
未記入	度数	356	51	62	469		
	%	10.4%	14.0%	16.3%	11.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「小遣いに満足している」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,417名（70.8%）、軽度介護群249名（68.4%）、重度介護群220名（57.7%）だった。

表43 「小遣い満足している」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,417	249	220	2,886	48.46	**
	%	70.8%	68.4%	57.7%	69.4%		
いいえ	度数	616	67	73	756		
	%	18.0%	18.4%	19.2%	18.2%		
未記入	度数	380	48	88	516		
	%	11.1%	13.2%	23.1%	12.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「何かの時のためにお金の蓄えがある」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,380名（69.7%）、軽度介護群244名（67.0%）、重度介護群225名（59.1%）だった。

表44 「何かの時のためにお金の蓄えがある」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,380	244	225	2,849	21.34	**
	%	69.7%	67.0%	59.1%	68.5%		
いいえ	度数	698	84	97	879		
	%	20.5%	23.1%	25.5%	21.1%		
未記入	度数	335	36	59	430		
	%	9.8%	9.9%	15.5%	10.3%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

6 疾病・身体的不自由

現在治療中の疾病で「脳卒中」と回答した者は、非該当群613名（18.0%）、軽度介護群27名（7.4%）、重度介護群32名（8.4%）だった。

表45 脳卒中の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	152	44	101	297	266.08	**
	%	4.5%	12.1%	26.5%	7.1%		
無回答	度数	3,261	320	280	3,861		
	%	95.5%	87.9%	73.5%	92.9%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「高血圧」と回答した者は、非該当群1,502名（44.0%）、軽度介護群173名（47.5%）、重度介護群128名（33.6%）だった。

表46 高血圧の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	1,502	173	128	1,803	17.95	**
	%	44.0%	47.5%	33.6%	43.4%		
無回答	度数	1,911	191	253	2,355		
	%	56.0%	52.5%	66.4%	56.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「心疾患」と回答した者は、非該当群414名（12.1%）、軽度介護群60名（16.5%）、重度介護群66名（17.3%）だった。

表47 心疾患の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	414	60	66	540	12.49	**
	%	12.1%	16.5%	17.3%	13.0%		
無回答	度数	2,999	304	315	3,618		
	%	87.9%	83.5%	82.7%	87.0%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「がん」と回答した者は、非該当群161名（4.7%）、軽度介護群21名（5.8%）、重度介護群17名（4.5%）だった。

表48 がんの有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	161	21	17	199	0.90	ns
	%	4.7%	5.8%	4.5%	4.8%		
無回答	度数	3,252	343	364	3,959		
	%	95.3%	94.2%	95.5%	95.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「糖尿病」と回答した者は、非該当群280名（8.2%）、軽度介護群35名（9.6%）、重度介護群41名（10.8%）だった。

表49 糖尿病の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	280	35	41	356	3.43	ns
	%	8.2%	9.6%	10.8%	8.6%		
無回答	度数	3,133	329	340	3,802		
	%	91.8%	90.4%	89.2%	91.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「骨折」と回答した者は、非該当群53名（1.6%）、軽度介護群21名（5.8%）、重度介護群28名（7.3%）だった。

表50 骨折の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	53	21	28	102	66.45	**
	%	1.6%	5.8%	7.3%	2.5%		
無回答	度数	3,360	343	353	4,056		
	%	98.4%	94.2%	92.7%	97.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「胃腸病」と回答した者は、非該当群245名（7.2%）、軽度介護群41名（11.3%）、重度介護群21名（5.5%）だった。

表51 胃腸病の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	245	41	21	307	10.18	**
	%	7.2%	11.3%	5.5%	7.4%		
無回答	度数	3,168	323	360	3,851		
	%	92.8%	88.7%	94.5%	92.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「呼吸器疾患」と回答した者は、非該当群190名（5.6%）、軽度介護群42名（11.5%）、重度介護群31名（8.1%）だった。

表52 呼吸器疾患の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	190	42	31	263	22.12	**
	%	5.6%	11.5%	8.1%	6.3%		
無回答	度数	3,223	322	350	3,895		
	%	94.4%	88.5%	91.9%	93.7%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「関節筋肉の疾患」と回答した者は、非該当群1,089名（31.9%）、軽度介護群160名（44.0%）、重度介護群106名（27.8%）だった。

表53 関節筋肉の疾患の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	1,089	160	106	1,355	26.07	**
	%	31.9%	44.0%	27.8%	32.6%		
無回答	度数	2,324	204	275	2,803		
	%	68.1%	56.0%	72.2%	67.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

現在治療中の疾病で「その他の疾患」と回答した者は、非該当群631名（18.5%）、軽度介護群81名（22.3%）、重度介護群105名（27.6%）だった。

表54 その他疾患の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	631	81	105	817	19.58	**
	%	18.5%	22.3%	27.6%	19.6%		
無回答	度数	2,782	283	276	3,341		
	%	81.5%	77.7%	72.4%	80.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「目や耳や歯について日常生活で困ることは何か」について、「目が見えにくい」と回答した者は、非該当群366名（10.7%）、軽度介護群78名（21.4%）、重度介護群60名（15.7%）だった。

表55 「目の不自由」の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	366	78	60	504	40.57	**
	%	10.7%	21.4%	15.7%	12.1%		
無回答	度数	3,047	286	321	3,654		
	%	89.3%	78.6%	84.3%	87.9%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「目や耳や歯について日常生活で困ることは何か」について、「耳が聞こえにくい」と回答した者は、非該当群475名（13.9%）、軽度介護群91名（25.0%）、重度介護群107名（28.1%）だった。

表56 「耳の不自由」の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	475	91	107	673	73.55	**
	%	13.9%	25.0%	28.1%	16.2%		
無回答	度数	2,938	273	274	3,485		
	%	86.1%	75.0%	71.9%	83.8%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「目や耳や歯について日常生活で困ることは何か」について、「歯や入れ歯の調子が悪い」と回答した者は、非該当群407名（11.9%）、軽度介護群94名（25.8%）、重度介護群98名（25.7%）だった。

表57 「歯の不自由」の有無と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
回答	度数	407	94	98	599	95.09	**
	%	11.9%	25.8%	25.7%	14.4%		
無回答	度数	3,006	270	283	3,559		
	%	88.1%	74.2%	74.3%	85.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

7 その他

「宗教的な心を大切にしている」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,682名（78.6%）、軽度介護群242名（66.5%）、重度介護群171名（44.9%）だった。

表58 「宗教的な心を大切にしている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,682	242	171	3,095	223.93	**
	%	78.6%	66.5%	44.9%	74.4%		
いいえ	度数	558	101	171	830		
	%	16.3%	27.7%	44.9%	20.0%		
未記入	度数	173	21	39	233		
	%	5.1%	5.8%	10.2%	5.6%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「生活時間は規則的である」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,899名（84.9%）、軽度介護群263名（72.3%）、重度介護群271名（71.1%）だった。

表59 「生活時間は規則的である」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,899	263	271	3,433	89.52	**
	%	84.9%	72.3%	71.1%	82.6%		
いいえ	度数	371	88	83	542		
	%	10.9%	24.2%	21.8%	13.0%		
未記入	度数	143	13	27	183		
	%	4.2%	3.6%	7.1%	4.4%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「気楽に用事を頼める人がいる」について、「はい」と回答した者は、非該当群2,858名（83.7%）、軽度介護群292名（80.2%）、重度介護群277名（72.7%）だった。

表60 「気楽に用事を頼める人がいる」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
はい	度数	2,858	292	277	3,427	42.03	**
	%	83.7%	80.2%	72.7%	82.4%		
いいえ	度数	216	41	36	293		
	%	6.3%	11.3%	9.4%	7.0%		
未記入	度数	339	31	68	438		
	%	9.9%	8.5%	17.8%	10.5%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

「定期的に健康診断を受けている」について、「毎年1回」と回答した者は、非該当群2,324名（68.1%）、軽度介護群227名（62.4%）、重度介護群186名（48.8%）だった。一方、「受けていない」と回答した者は、非該当群233名（6.8%）、軽度介護群19名（5.2%）、重度介護群36名（9.4%）だった。その他の回答状況は、表61に示す。

表61 「定期的に健康診断を受けている」の回答状況と介護認定区分のクロス集計結果

		非該当群	軽度介護群	重度介護群	合計	χ^2 値	有意差
受けていない	度数	233	19	36	288	163.28	**
	%	6.8%	5.2%	9.4%	6.9%		
数年に1回	度数	216	20	20	256		
	%	6.3%	5.5%	5.2%	6.2%		
毎年1回	度数	2324	227	186	2737		
	%	68.1%	62.4%	48.8%	65.8%		
わからぬ	度数	11	5	18	34		
	%	0.3%	1.4%	4.7%	0.8%		
その他	度数	321	58	82	461		
	%	9.4%	15.9%	21.5%	11.1%		
未回答	度数	308	35	39	382		
	%	9.0%	9.6%	10.2%	9.2%		
合計	度数	3,413	364	381	4,158		
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

表62 分析結果一覧(1)

	表番号	調査項目	調査項目*要介護区分		
			χ^2 値	有意差	
基本情報	2	性別	56.44	**	
	3	年齢区分	403.69	**	
生活活動力	4	「バスや電車を使ってひとりで外出できる」の可否	1240.03	**	
	5	「日用品の買い物が自分でできる」の可否	1553.70	**	
	6	「食事の支度が自分でできる」の可否	886.76	**	
	7	「自分の身の回りのことができる」の可否	1725.77	**	
	8	「金銭の管理や計算が自分でできる」の可否	1370.67	**	
ライフスタイル	身体活動	9	1日あたり30分以上の外出の頻度	606.29	**
		10	歩く速さの程度	823.73	**
		11	1日あたり30分以上の運動の頻度	313.11	**
		12	1日あたり30分以上の作業の頻度	983.26	**
	食事・飲酒・喫煙	13	1日あたりの食事回数	20.77	**
		14	1日あたりの肉・魚・大豆摂取頻度	71.97	**
		15	1日あたりの野菜摂取頻度	52.74	**
		16	1日あたりの緑茶摂取頻度	136.00	**
		17	食欲の有無	124.37	**
		18	飲酒頻度	108.11	**
	19	喫煙状況	24.44	**	
社会活動	20	収入を伴う仕事の頻度	79.08	**	
	21	家事等収入を得ない仕事・作業の頻度	743.27	**	
	22	ボランティア活動の頻度	159.73	**	
	23	「自分以外の人の世話」の頻度	265.92	**	
	24	学習的活動の参加状況	263.87	**	
生活満足度	25	「現在の生活に満足している」の回答状況	217.85	**	
	26	「健康だと感じている」の回答状況	333.04	**	
	27	「体調がすぐれないことが多い」の回答状況	230.23	**	
	28	「毎日気分よく過ごせる」の回答状況	293.75	**	
	29	「元気だと感じている」の回答状況	379.86	**	
	30	「将来に不安を感じている」の回答状況	98.44	**	
	31	「寂しいと感じることがある」の回答状況	265.42	**	
	32	「自分が無力だと感じることがある」の回答状況	250.48	**	
	33	「気分が落ち込むことがある」の回答状況	229.99	**	
	34	「将来に夢や希望がある」の回答状況	205.31	**	
	35	「生きがいを持っている」の回答状況	483.10	**	
	36	「趣味を持っている」の回答状況	417.61	**	
	37	「毎日の生活で気力を感じている」の回答状況	489.01	**	
	38	「周りの人とうまくいっている」の回答状況	154.76	**	
	39	「友人との付き合いに満足している」の回答状況	390.16	**	
	40	「家族との付き合いに満足している」の回答状況	76.75	**	
	経済的状況	41	「近所付き合いに満足している」の回答状況	419.37	**
42		「ある程度お金に余裕がある」の回答状況	30.86	**	
43		「小遣い満足している」の回答状況	48.46	**	
44		「何かの時のためにお金の蓄えがある」の回答状況	21.34	**	

表63 分析結果一覧(2)

	表番号	調査項目	調査項目*要介護区分	
			χ^2 値	有意差
疾病・身体的不自由	45	脳卒中の有無	266.08	**
	46	高血圧の有無	17.95	**
	47	心疾患の有無	12.49	**
	48	がんの有無	0.90	ns
	49	糖尿病の有無	3.43	ns
	50	骨折の有無	66.45	**
	51	胃腸病の有無	10.18	**
	52	呼吸器疾患の有無	22.12	**
	53	関節筋肉疾患の有無	26.07	**
	54	その他疾患の有無	19.58	**
	55	目の不自由の有無	40.57	**
その他	56	耳の不自由の有無	73.55	**
	57	歯の不自由の有無	95.09	**
	58	「宗教的な心を大切にしている」の回答状況	223.93	**
	59	「生活時間は規則的である」の回答状況	89.52	**
	60	「気楽に用事を頼める人がいる」の回答状況	42.03	**
	61	「定期的に健康診断を受けている」の回答状況	163.28	**

IV 考 察

1 対象者

厚生労働省の平成 20 年度介護保険事業状況報告⁷⁾によれば、静岡県における 75 歳以上の第 1 号被保険者数は 407,412 名で、そのうち、103,472 名が介護保険認定者となっており、介護保険認定率は 25.4%だった。一方、全国の介護保険認定率は 29.2%となっており、静岡県は全国に比べて認定率が 3.8%低かった。一方、表 1 をみると、要介護状態が明らかにならなかった（未記入者）1,548 名を除く 4,158 名（今回の分析対象者）では、要支援および要介護者は 745 名で、その割合は 17.9%となり、厚生労働省が発表している静岡県の介護保険認定率 25.4%と比べると低率であった。これは、未記入者が全回答者の 27%を占めていることから、その中に要支援・要介護者が含まれている可能性があると考えられた。

また、本調査における軽度介護群と重度介護群の人数比率は、48.9%対 51.1%、一方、厚生労働省の平成 20 年度介護保険事業状況報告による静岡県のそれは（75 歳以上）、40.4%対 59.4%となっていた。このことから、今回未記入者の中には、とりわけ重度介護群に該当する者が多く混在しているのではないかと考えられた。

2 生活活動力、ライフスタイル

「外出」「買い物」「食事の支度」に関する質問項目で、「はい」と回答した者の割合は、非該当群で 80%以上であったが、軽度介護群で 40%以下、重度介護群で 10%以下という結果だった。これは、介護認定区分の項目にこれらの生活活動が含まれていることから、介護予防のためのひとつの対策として、上に挙げたような生活活動の維持ないし改善が重要といえる。

表 4 の「バスや電車を使ってひとりで外出できる」の質問に対して、「はい」と回答した者は、非該当群で 79.1%だった。表 4 の質問は、移動手段の例として公共交通機関を挙げているが、「自家用車等を除く」などの制限を設けていない。よって、自家用車等の使用を想定して、外出ができると回答した者は、公共交通機関の使用を想定した者に比べて、外出に係る身体活動量が少ないことが予測される。表 9 の「1 日あたり 30 分以上の歩行を伴う外出の頻度」の質問に対して、頻度にかかわらず「はい」と回答した者は、非該当群で 70.5%だった。移動手段として、主に自動車等を使用することが多い高齢者に対しては、表 4 の「できる」能力を評価するだけでなく、表 9 にある歩行の実施状況を含めて、活動的かつ自立した生活を送れているかどうかを評価していくことが重要と考えられる。活動的な外出者が多くなれば、表 9 の結果（70.5%）が表 4 のそれ（79.1%）に近付いていくものと推察された。軽度・重度介護群については、バスや電車を使った

外出が、「できる」と回答した者が、それぞれ軽度 22.5%、重度 7.3%だった。また、30分以上の歩行を伴う外出を頻度にかかわらずしている者が、それぞれ軽度 37.1%、重度 15.2%だった。軽度・重度介護群に関しては、非該当群に比べて単独でのバスや電車等の使用が難しい分、家族等の付き添いを含めながら、歩行を移動手段として外出する者が多くなれば、活動的な外出者が増えるものと考えられた。なお、表4と表9との関連性についてさらに言及していくには、両者のデータを突合し、より正確な分析を行う必要がある。よって、今回はクロス集計結果をもとに、両者の関連性について推察的に述べた。

「日用品の買い物が自分でできる」の質問に対し、軽度介護群で 37.6%、重度介護群で 10.0%の者が「はい」と回答した。一方、「金銭の管理や計算が自分でできる」の問いについては、軽度介護群で 69.2%、重度介護群で 26.2%の者が「はい」と回答していた。これは、各群とも買い物に出掛けることが困難となっても、金銭の管理能力については残存している者がいる可能性がある。このような高齢者に対して、たとえば宅配サービスや移動販売等の活用を促進させることは、金銭管理や計算の能力の維持に役立つのではないかと考えられた。

4 社会活動

高齢者のボランティア活動や学習活動等、自主活動への参加頻度が高いと、抑うつ傾向、健康度自己評価、生活活動能力の低下（悪化）が抑制されることが明らかになっている⁸⁾。非該当群は、頻度を問わずボランティア活動に参加していると回答した者の割合は、24.6%だった。一方、軽度・重度介護群については、頻度を問わずボランティア活動に参加していると回答した者の割合が、非該当群に比べて低率だった（軽度 6.9%、重度 1.9%）（表 22）。非該当群については、趣味活動やボランティア活動などの自主活動をさらに促していけるような体制を構築していくことが重要と考えられた（例：ボランティアリーダーの養成など）。

軽度、重度介護群については、ボランティア活動や「自分以外の人の世話」（表 23）等を実際に行っている少数の高齢者を追跡し、具体的にどのような形で活動に関わっているかを聴き取り等で明らかにすることが重要と考えられる。それにより、要介護状態になったことによる、活動範囲の狭小化の抑制や、残存機能を活用するための手がかりが得られる可能性があると考えられた。

5 生活満足度

先行研究では、高い自立度（移動能力）や身体活動（歩行、運動、作業など）が Quality of Life (QOL) 指標に好影響を及ぼすことが報告されている^{9),10)}。また、高田ら¹¹⁾は、「夢や希望があること」と「気力を感じる」が要支援・要介護に対して予防的に寄与し、「無力とを感じる」についてはリスクを高めるこ

とを確認している。今回の調査においても、要介護状態が重度になるほど、「将来に夢や希望がある」や「毎日の生活で気力を感じている」で「はい」と回答する割合が低くなっており、また「自分が無力だと感じることもある」については、「はい」と回答する者の割合が軽度介護群以降で高くなっていた。よって、QOLに関わる指標を低下させないためには、自立度や身体活動の能力を維持ないし改善させ、要介護状態を回避させることが重要であることが示唆された。

軽度・重度介護群に関しては、経済的な満足感や、近所や家族などの人的サポートによる満足感を得ている者が半数以上いたのに対し、健康感や気力、生きがい感といった要素については、満足感が得られにくいという結果となった。既に介護保険の認定を受けている者に対しては、単にその認定区分を改善させることを目指すだけでなく、健康感や気力、生きがい感といった要素に立脚して、並行して支援方法を模索していくべきであると考えられた。

6 疾病・障害

平成 19 年度国民生活基礎調査¹²⁾によれば、「介護が必要となった主な原因」について、75 歳以上の軽度介護群では「関節疾患」が最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」「高齢による衰弱」「骨折・転倒」「認知症」の順で多かった。一方、重度介護群については、「脳血管疾患（脳卒中）」が最も多く、次いで「認知症」「高齢による衰弱」「骨折・転倒」「関節疾患」の順で多かった。表 49「脳卒中の有無」においても、介護状態が重度な群ほど「あり」と回答した者の割合が高くなっており、介護状態の重度化を回避させるためには、脳血管疾患を予防させることが重要であることを、本調査からも示された。

次に、表 57 の「関節筋肉の疾患の有無」では、「あり」と回答した者の割合が非該当群で 31.9%、軽度介護群で 44.0%、重度介護群で 27.8%と重度介護群が最も低かった。「関節筋肉の疾患」において「あり」と回答した者の割合で、軽度介護群が最も高かったのは、国民生活基礎調査の「介護が必要となった主な原因」で「関節疾患」が最も多かったことと関係している可能性がある。重度介護群については、「関節疾患」は原因として 5 番目に多く、軽度介護群と順位が異なっていたという結果を受けて、本調査における治療中の疾患としての「関節筋肉の疾患」が、軽度介護群よりも低率となったのではないかと考えられた。

表 54 の「骨折の有無」について、すべての群において「あり」と回答した者の割合が 10%を下回っていた。しかし、転倒に由来する骨折については、その後転倒に対する恐怖感や不安感を自覚することが多く、そこから閉じこもり傾向の生活に変化することにより、要介護状態に発展しやすくなることが指摘されている¹³⁾。過去に転倒による骨折を経験した人に関しては、現在治療中でなくても、転倒に対する恐怖感や不安感の有無を把握し、転倒予防のための方策を考案して

いくことが重要と考えられる。総じて、現在治療中の疾患としての「骨折」を把握することも重要と考えられるが、治療期間が過ぎた後のケアについても注視すべきであると思われた。

7 その他

表 62「定期的に健康診断を受けている」について、「毎年 1 回」と回答した者の割合は、非該当群が最も多く（68.1%）、重度介護群については 48.8%だった。一方、重度介護群で「その他」と回答した者が 82 名（21.5%）いた。「その他」を回答した者の中には、かかりつけ医等で必要に応じた検査を随時受けていることが予測される。それが健診と同等の意味を持つものとして高齢者が認識していれば、毎年 1 回の健診を受診する者が減少する可能性がある。しかし今回、選択肢のうち「受けていない」や「その他」についての内訳は、把握していない。よって、この調査結果から高齢者における健診未受診の要因について明らかにするには、限界があると考えられた。

V 終わりに

本調査において、結果を集計、分析することにより、ある程度の特徴が把握できたことは、行政がその属性に見合ったケアや予防活動の進め方について検討していく上では、有用な資料になり得るものと考えられる。

しかし、調査結果の解釈の仕方について、いくつか注意すべき点があることをここで触れる。本調査は、介護保険認定状況（非該当群、軽度介護群、重度介護群）と身体・心理・社会的要因との関連についてクロス集計を行った。つまり、ある変数の集計結果（分布の仕方）が、群によって異なっているかどうかを分析しており、高齢者の要介護化にかかわる要因について、細部にわたって明らかにするには限界があることを念頭に置く必要がある。また、調査方法について、より多くの回答が得られるよう家族等による代筆を認めて実施した。しかしながら、未記入の項目が散見され、特に重度介護群で未記入者が顕著に多く、その分、県内における平均的な高齢者の生活実態を反映しきれていないことも含めて、調査結果の解釈には留意すべきである。

VI 文 献

- 1) 静岡県総合健康センター．静岡県における高齢者の生活実態調査Ⅰ－性・年齢階級別比較－，平成13年3月．
- 2) 静岡県総合健康センター．静岡県における高齢者の生活実態調査Ⅲ－第1回・第2回調査集計結果－，平成15年3月．
- 3) 静岡県総合健康センター．静岡県における高齢者の生活実態調査Ⅵ－第1回～第3回調査集計結果－，平成19年3月．
- 4) 静岡県総合健康センター．静岡県における高齢者の生活実態調査Ⅶ－第1回～第4回調査集計結果－，平成21年3月．
- 5) 太田壽城，芳賀博，長田久雄，他．地域高齢者のための QOL 質問表の開発と評価．日本公衛誌 2001；48：258－266．
- 6) 加藤伸司，他．改訂版長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）の作成．老年精神医学 1991；1339－1347．
- 7) 厚生労働省．平成20年度介護保険事業状況報告（年報）．2008．
- 8) 本田春彦，植木章三，岡田徹，他．地域在住高齢者における自主活動への参加状況と心理社会的健康および生活機能との関係．日本公衆衛生雑誌 2010；57：968-976．
- 9) 久保田晃生，渡辺訓子，藤田信，他．高齢者の QOL に対する移動能力の影響－静岡県在住高齢者の身体・心理・社会的縦断調査から－．生涯スポーツ学研究 2004；2：31-40．
- 10) 久保田晃生，藤田信，渡辺訓子，他．高齢者の身体活動状況と QOL との関連について－静岡県在住高齢者の身体・心理・社会的縦断調査結果－．保健の科学 2004；46：701-708．
- 11) 高田和子，太田壽城，久保田晃生，他．大規模コホート観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発，平成20年度総括・分担研究報告書「地域在住高齢者の介護認定の有無に関連する要因の検討」2009：17-21．
- 12) 厚生労働省．平成19年国民生活基礎調査．2007．
- 13) 武藤芳照，太田美穂，長谷川亜弓，他．総説・転倒予防．臨床整形外科 2005；40（5）：537-548．

静岡県における高齢者生活実態調査Ⅷ
生活自立度と要介護状態にかかわる調査結果報告書

平成 23 年 3 月発行

編集・発行：静岡県総合健康センター

三島市谷田 2276

電話：055-973-7001

FAX：055-973-7010

研究担当：竹内 亮

共同研究者：東海大学

久保田 晃生

独立行政法人 国立健康・栄養研究所

高田 和子

医療法人鉄友会 さくらの里

太田 壽城

